

2 広報・広聴

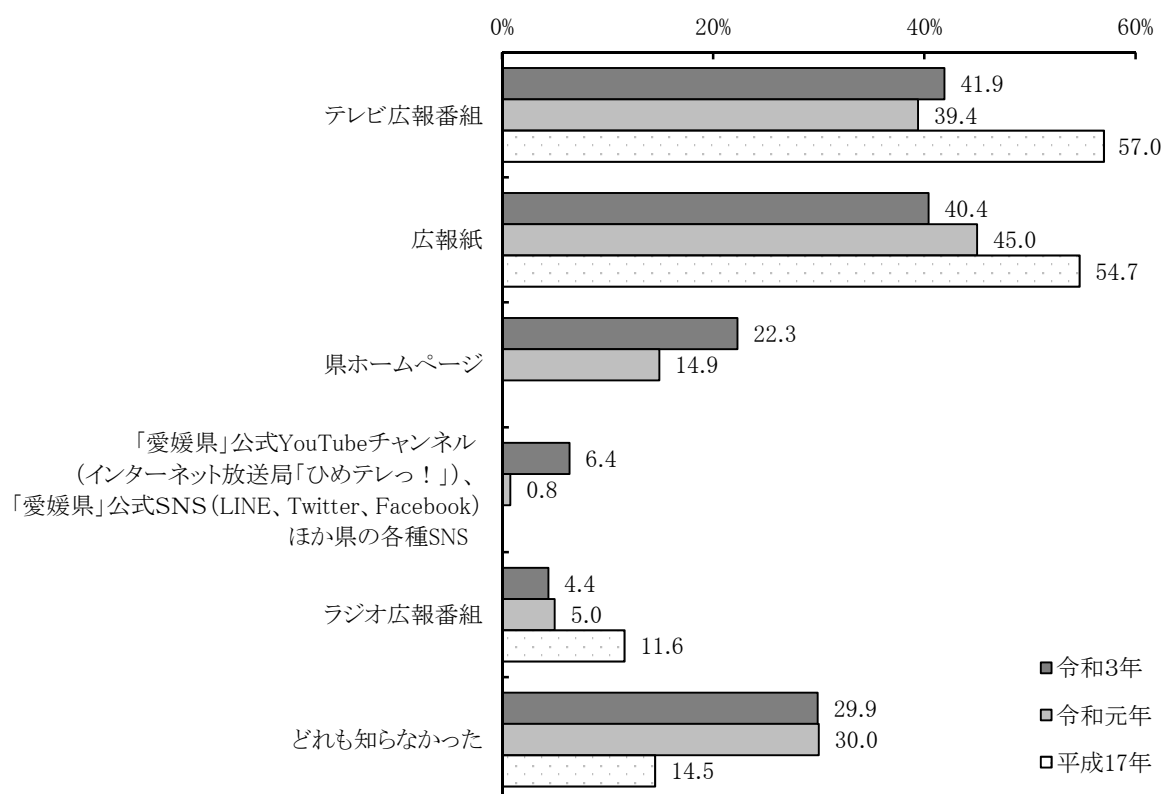
問 14 県の広報活動の周知度

県では、次のような広報を行っていますが、あなたが知っているものを当てはまるものを全て選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 テレビ広報番組		
①みきゃん&友近のつながれ！えひめ（南海放送）		
②特別番組 「愛媛プロレス キューティーエリー・ザ・エヒメの愛媛 の魅力にヒップ☆アタック！」（愛媛朝日テレビ）	4	1.9
2 広報紙「愛顔のえひめ」（新聞折り込みによる広報紙）	4	0.4
3 ラジオ広報番組		
①FMみきゃんラジオ（FM愛媛）	4	4
②週刊みきゃんラジオ（南海放送ラジオ）		
4 県ホームページ	2	2.3
5 「愛媛県」公式YouTubeチャンネル（インターネット放送局 「ひめテレっ！」）、「愛媛県」公式SNS（LINE、Twitter、 Facebook）ほか県の各種SNS	6	4
6 どれも知らなかった	2	9.9

県が行っている広報活動のうち、知っているものを聞いたところ、「テレビ広報番組」（41.9%）及び「広報紙」（40.4%）と答えた人の割合が特に多く、以下「県ホームページ」（22.3%）、「愛媛県」公式YouTubeチャンネル（インターネット放送局「ひめテレっ！」）、「愛媛県」公式SNS（LINE、Twitter、Facebook）ほか県の各種SNS」（6.4%）、「ラジオ広報番組」（4.4%）などの順となっている。

また、前回調査と比較すると、「広報紙」と答えた人の割合は、4.6ポイント減少している一方、「テレビ広報番組」は、2.5ポイント、「県ホームページ」は、7.4ポイント増加している。

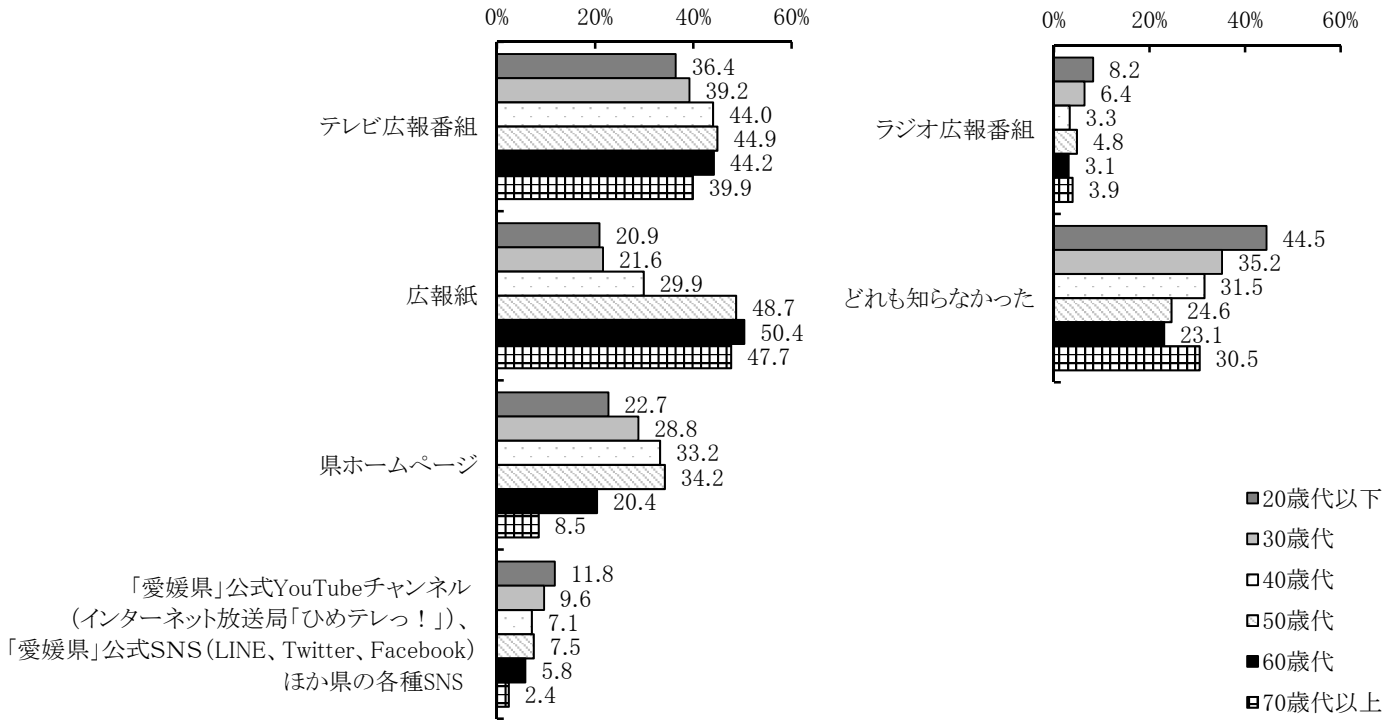


【年齢別】

年齢別にみると、50歳代以上では、「広報紙」と答えた人の割合が最も多く、40歳代以下では、「テレビ広報番組」が最も多くなっている。

また、「どれも知らなかった」と答えた人の割合は、20歳代以下で44.5%と最も多くなっている。前回調査と比較すると、60歳代以上では減少しているが、50歳代以下で増加し、特に20歳代以下では11.5ポイントと大きく増加している。

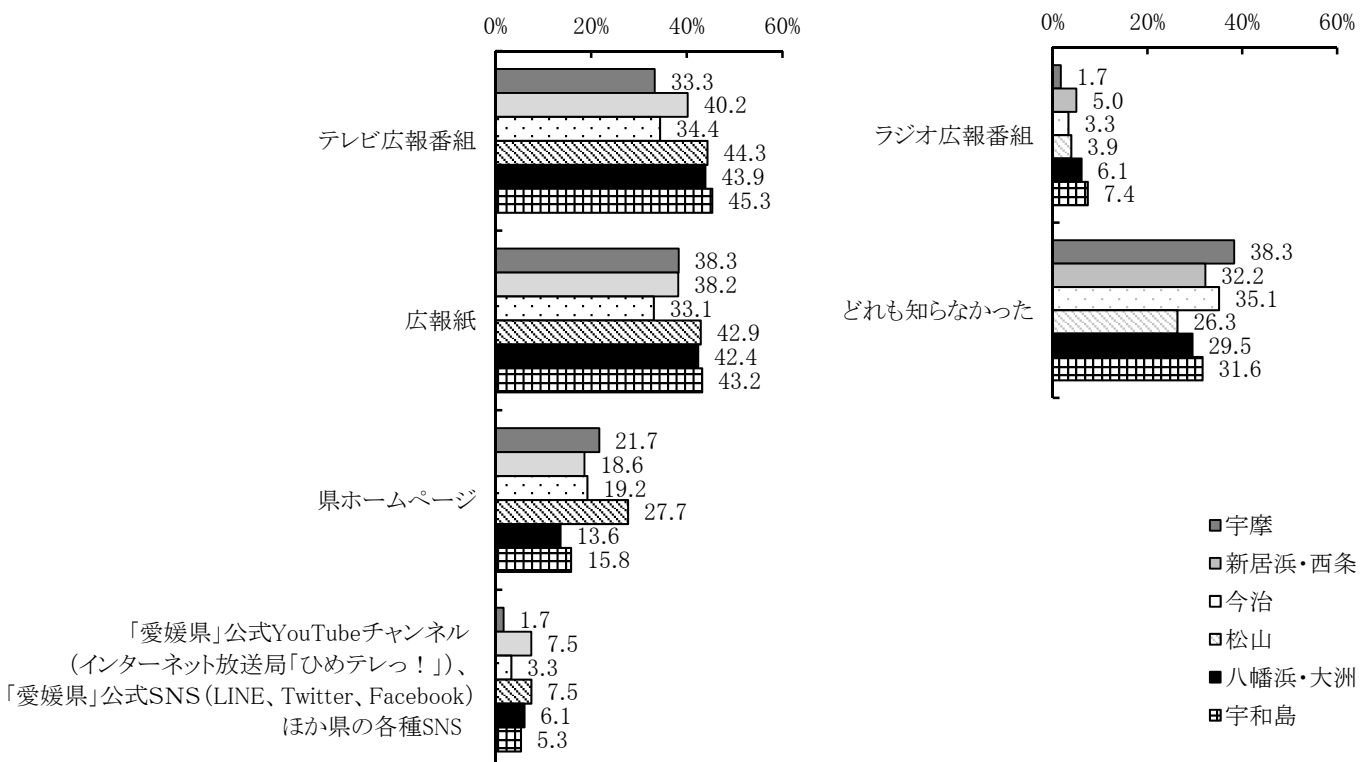
この他、「県ホームページ」と答えた人の割合は前回調査と比較して、20歳代以下を除く全ての年齢層で増加しており、特に50歳代及び60歳代では10ポイント以上大きく増加している。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域を除く全ての圏域で、「テレビ広報番組」と答えた人の割合が最も多く、宇摩圏域では、「広報紙」が最も多くなっている。

また、前回調査と比較すると、全ての圏域で「県ホームページ」と答えた人の割合が増加しており、特に宇摩圏域では10.2ポイントと大きく増加している。



問 15 県のテレビ広報番組の視聴経験

県のテレビ広報番組（①みきちゃん&友近のつながれ！えひめ（南海放送 日曜日 20：54～21：00）、再放送（南海放送 日曜日 12：50～12：55）、②特別番組「愛媛プロレス キューティーエリー・ザ・エヒメの愛媛の魅力にヒップ☆アタック！」（愛媛朝日テレビ 火曜日（年 12 回） 20：54～21：00））をご覧になったことがありますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 ①又は②を見たことがある	36.8
2 ①も②も見なかった	63.2

《テレビ広報番組を見ての感想》

(回答者=426人) (単数回答) (%)

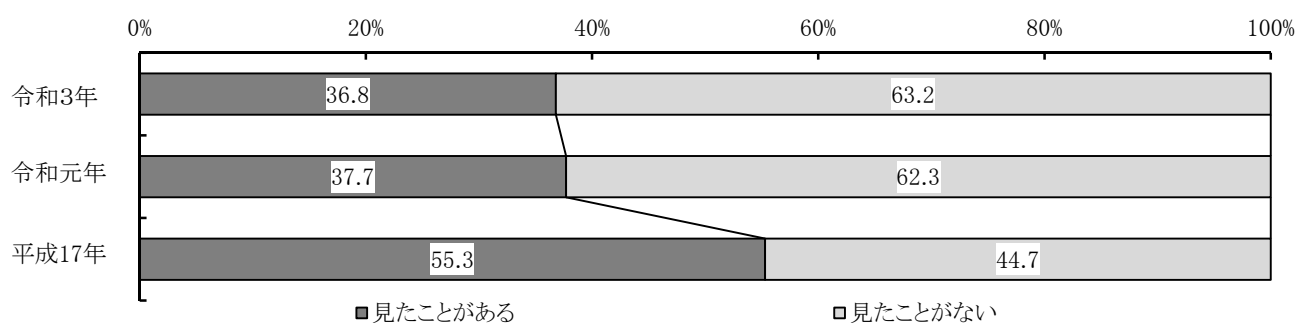
1 番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった	36.4
2 番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった	38.5
3 番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい	13.1
4 番組が画一的で、県の仕事や内容も分かりにくい	5.9
5 その他	6.1

《見たことがない理由》

(回答者=733人) (単数回答) (%)

1 放送されていることを知らなかった	61.3
2 仕事の都合などで、現在の放送時間では見ることができない	14.9
3 広報番組は画一的でおもしろみがなく、見る気がしない	13.6
4 その他	10.2

県のテレビ広報番組を見たことがあるかを聞いたところ、「見たことがない」と答えた人の割合は、63.2%、「見たことがある」と答えた人の割合は36.8%で、「見たことがない」の方が、26.4ポイント多くなっている。また、前回調査と比較すると、「見たことがない」と答えた人の割合は、0.9ポイント増加している。



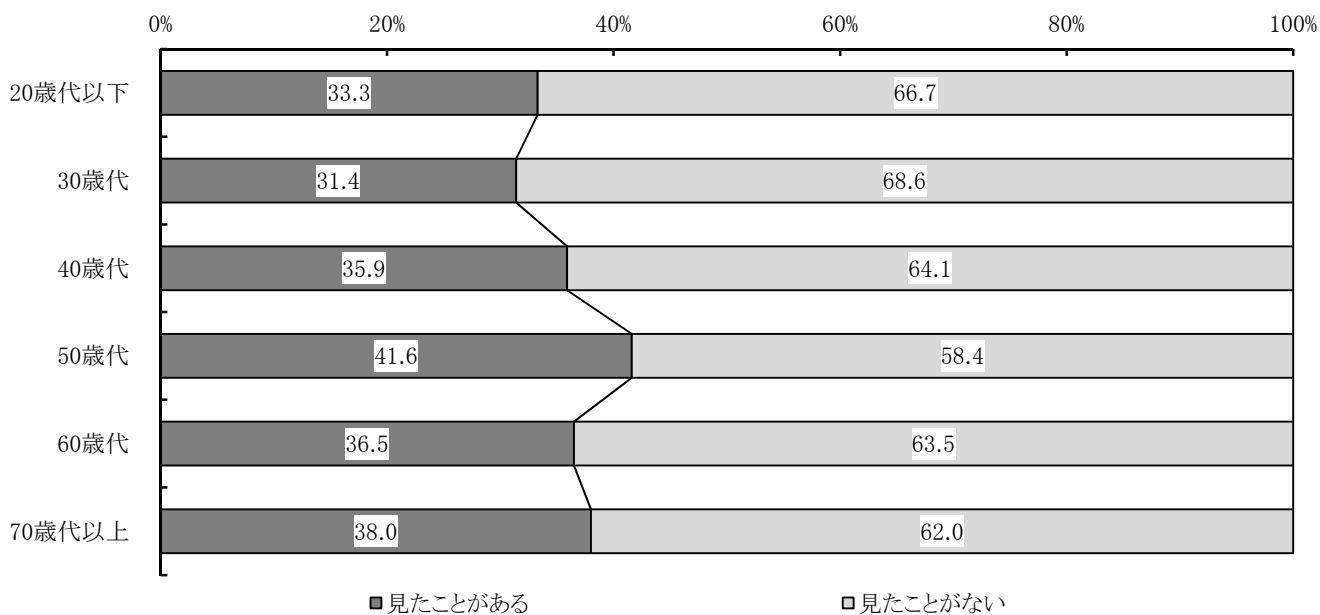
(注) 見たことがあるは、全体からどれも見たことがないと回答した人を除く。
平成17年度調査時点では2番組を放送。

【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で、「見たことがない」と答えた人の割合は、「見たことがある」を上回っており、50歳代(58.4%)を除く全ての年齢層で6割を超えている。

また、前回調査と比較すると、「見たことがある」と答えた人の割合は、30歳代では13.6ポイント、40歳代では15.0ポイント減少している。

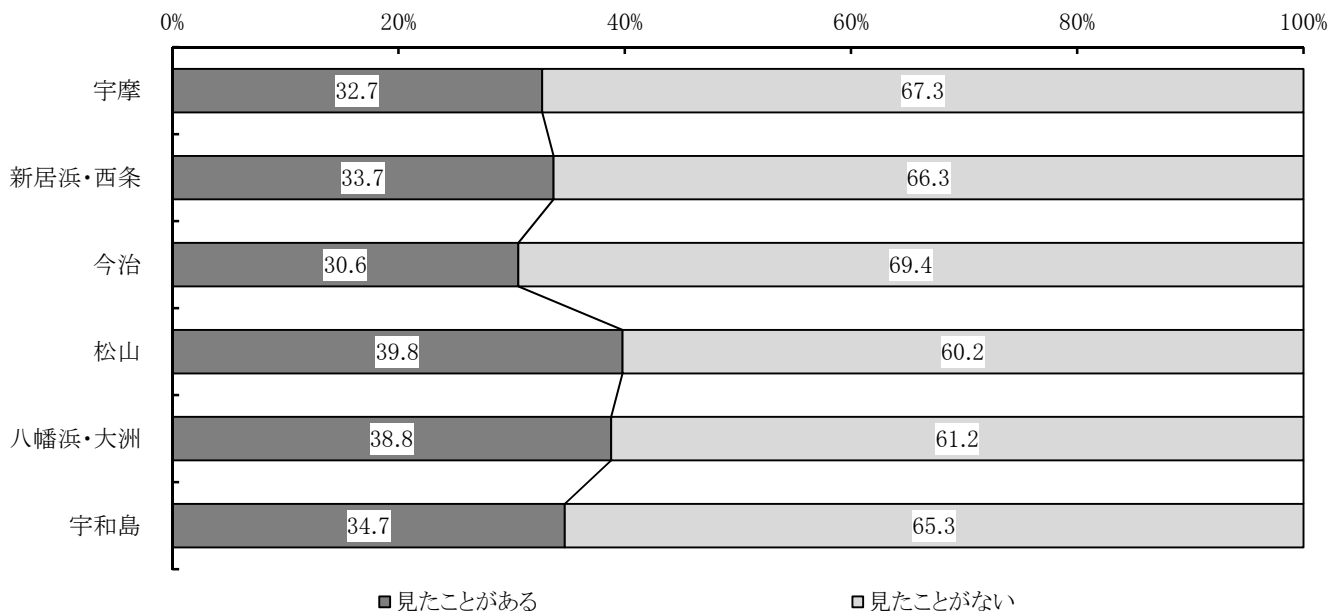
一方、70歳代以上では、9.3ポイント増加している。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で、「見たことがない」と答えた人の割合は、「見たことがある」を上回っており、6割を超えている。

また、前回調査と比較すると、「見たことがある」と答えた人の割合は、宇摩圏域では8.1ポイント増加し、今治圏域では5.4ポイント減少している。

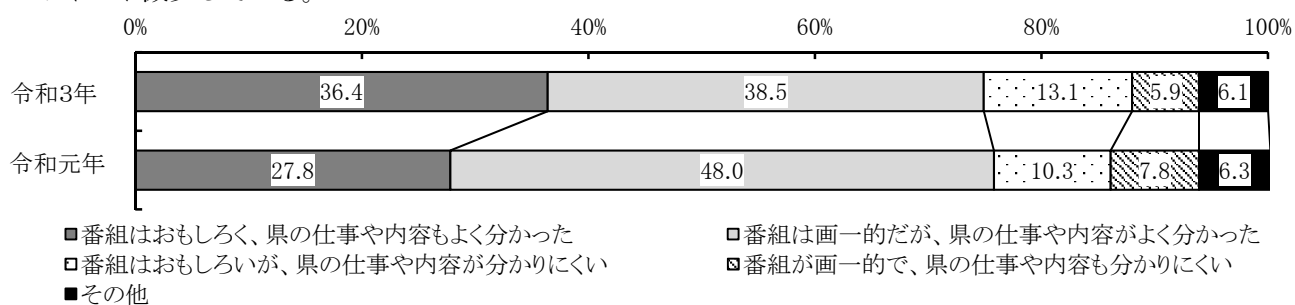


《テレビ広報番組を見ての感想》

県のテレビ広報番組を見たことがあると答えた人に、その感想を聞くと、「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合が38.5%と最も多く、以下「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」(36.4%)、「番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい」(13.1%)などの順となっている。

また、前回調査と比較すると、「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」と答えた人の割合は、8.6ポイント増加し、「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」は、9.5ポイント減少している。

なお、「県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合を合計すると74.9%となり、前回調査より0.9ポイント減少している。

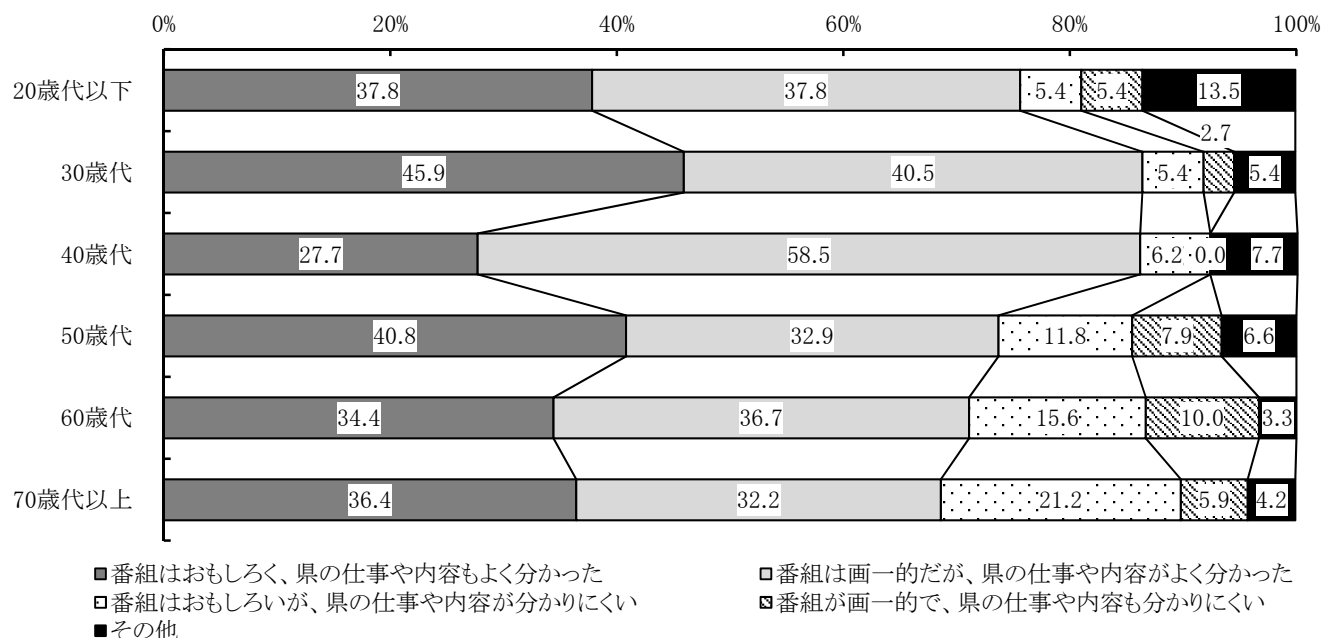


【年齢別】

年齢別にみると、「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」と答えた人の割合は、30歳代以下、50歳代及び70歳代以上で最も多く、「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」は、20歳代以下では同率で、40歳代及び60歳代では最も多くなっている。

また、前回調査と比較すると、40歳代を除く全ての年齢層で、「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」と答えた人の割合は増加しており、特に30歳代では23.9ポイントと大きく増加している。

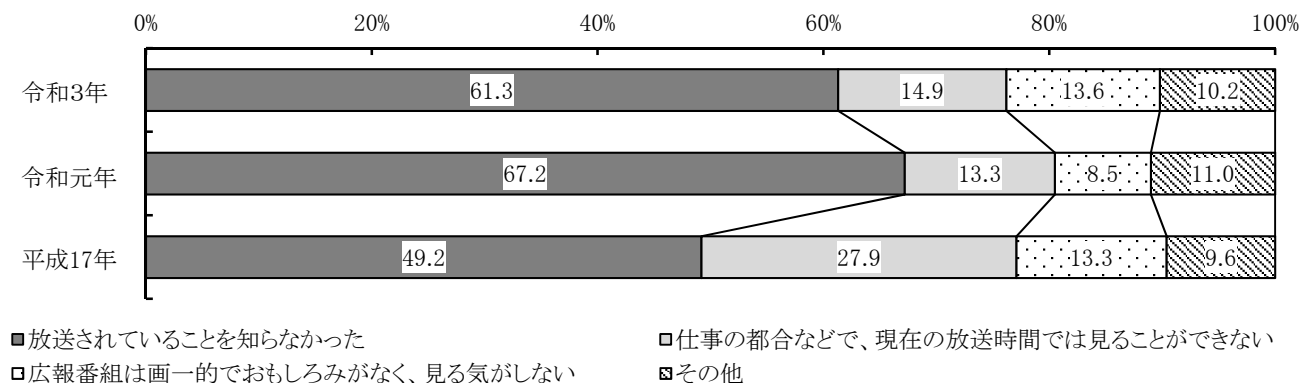
この他、「県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合を合計すると、全ての年齢層で、「県の仕事や内容が分かりにくい」を大幅に上回っており、特に30歳代(86.4%)及び40歳代(86.2%)で多くなっている。



《見たことがない理由》

県のテレビ広報番組を「見たことがない」と答えた人に、その理由を聞くと、「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合が61.3%と最も多く、以下「仕事の都合などで、現在の放送時間では見ることができない」(14.9%)、「広報番組は画一的でおもしろみがなく、見る気がしない」(13.6%)となっている。

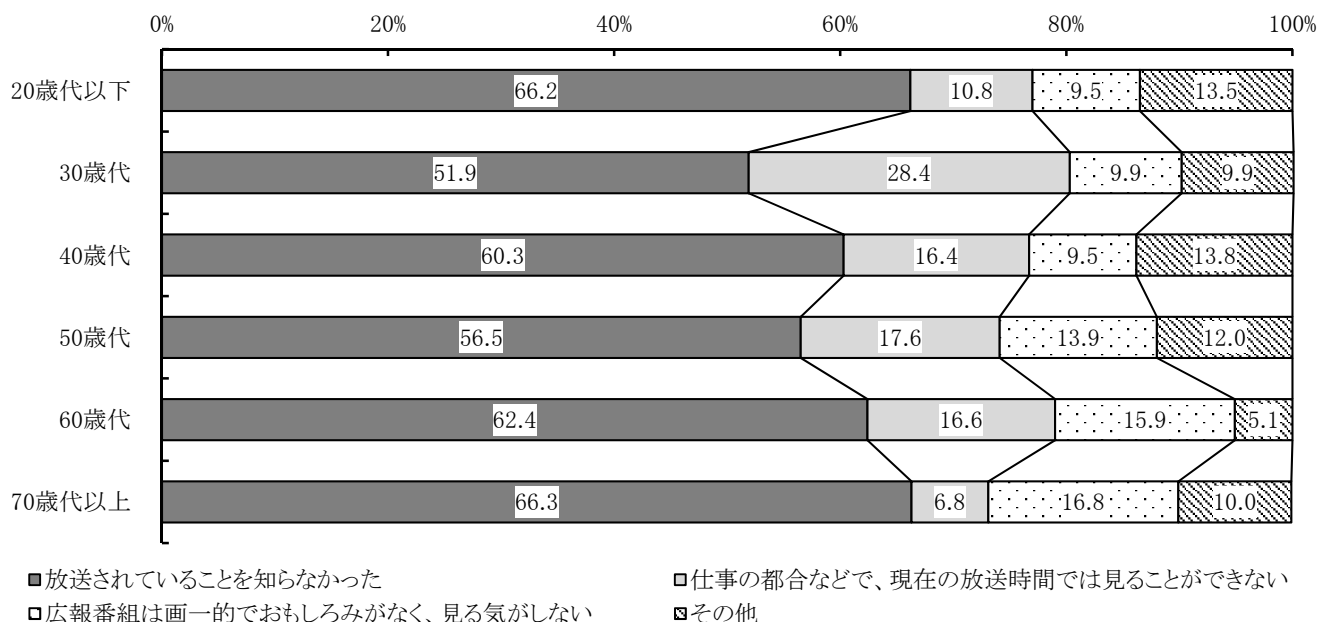
また、前回調査と比較すると、「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合は、5.9ポイント減少し、「広報番組は画一的でおもしろみがなく、見る気がしない」は、5.1ポイント増加している。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で、「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、前回調査と比較すると、40歳代を除く全ての年齢層で、「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合は減少しており、特に30歳代で13.1ポイントと大きく減少している。



問 16 県のラジオ広報番組の聴取経験

次にあげる県のラジオ広報番組であなたがお聞きになったことがあるものを当てはまるものを全て選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 FMみきゃんラジオ (FM愛媛) 毎週月～金曜日 11:54～11:55		3.8
2 週刊みきゃんラジオ (南海放送ラジオ) 毎週土曜日 11:10～11:20		1.9
3 どれも聞いたことがない		95.0

《ラジオ広報番組を聞いての感想》

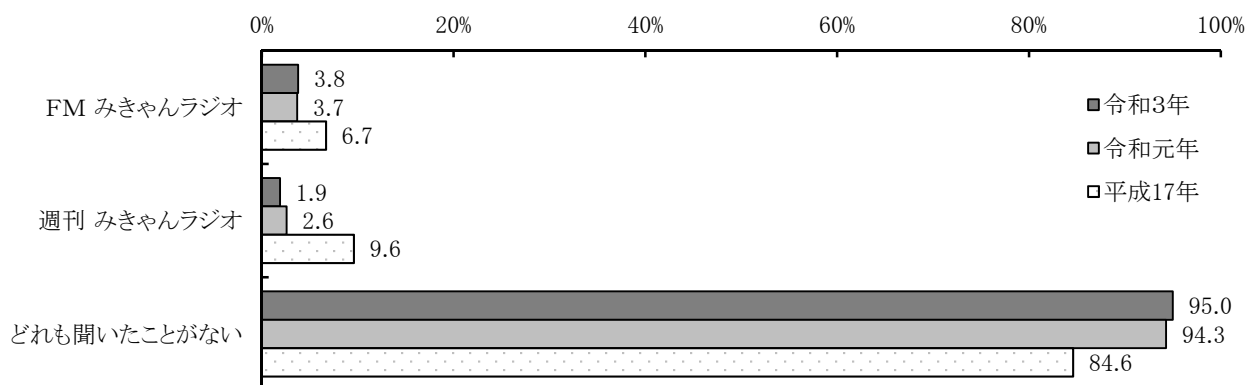
	(回答者=58人) (単数回答)	(%)
1 番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった		27.6
2 番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった		37.9
3 番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい		13.8
4 番組が画一的で、県の仕事や内容も分かりにくい		5.2
5 その他		15.5

《聞いたことがない理由》

	(回答者=1,120人) (単数回答)	(%)
1 放送されていることを知らなかった		55.6
2 仕事の都合などで、現在の放送時間では聞くことができない		14.9
3 広報番組は画一的でおもしろみがなく、聞く気がしない		6.1
4 その他		23.4

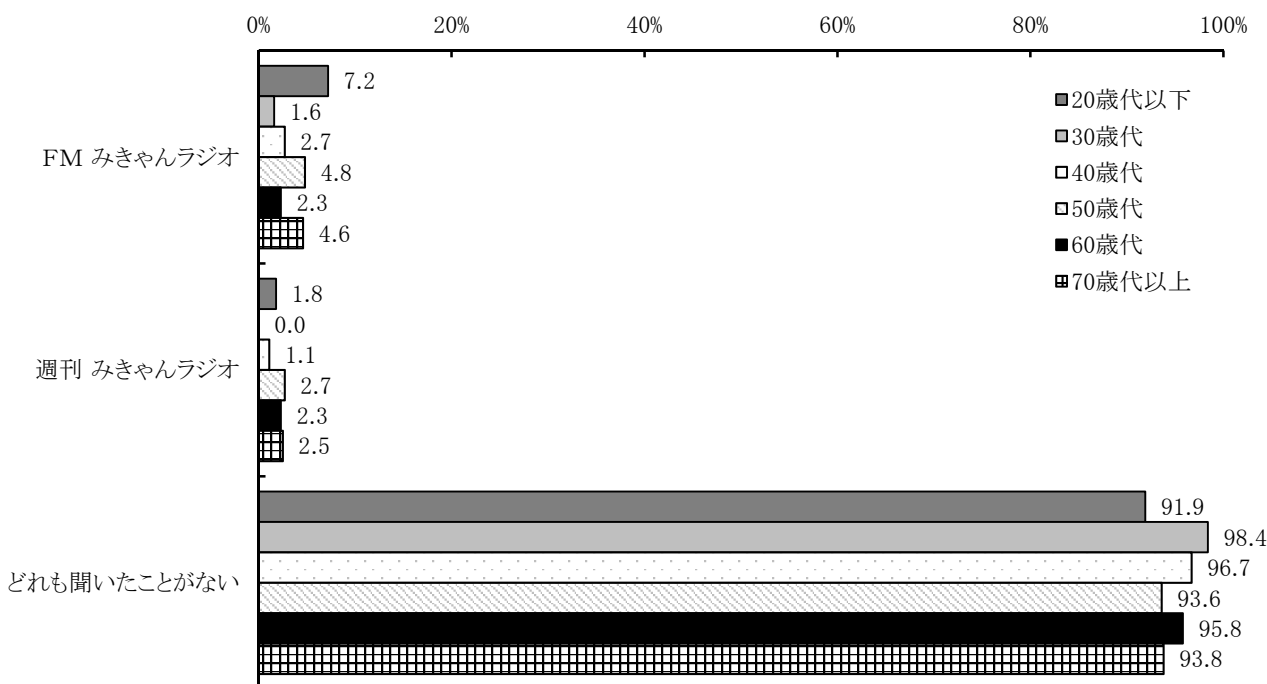
県のラジオ広報番組のうちで、聞いたことがあるものについて聞いたところ、「どれも聞いたことがない」と答えた人の割合が95.0%と最も多く、以下「FMみきゃんラジオ (FM愛媛)」(3.8%)、「週刊みきゃんラジオ (南海放送ラジオ)」(1.9%)となっている。

また、前回調査と比較すると、「FMみきゃんラジオ (FM愛媛)」と答えた人の割合は、0.1ポイント増加している。「週刊みきゃんラジオ (南海放送ラジオ)」と答えた人の割合は、0.7ポイント減少し、「どれも聞いたことがない」は0.7ポイント増加している。



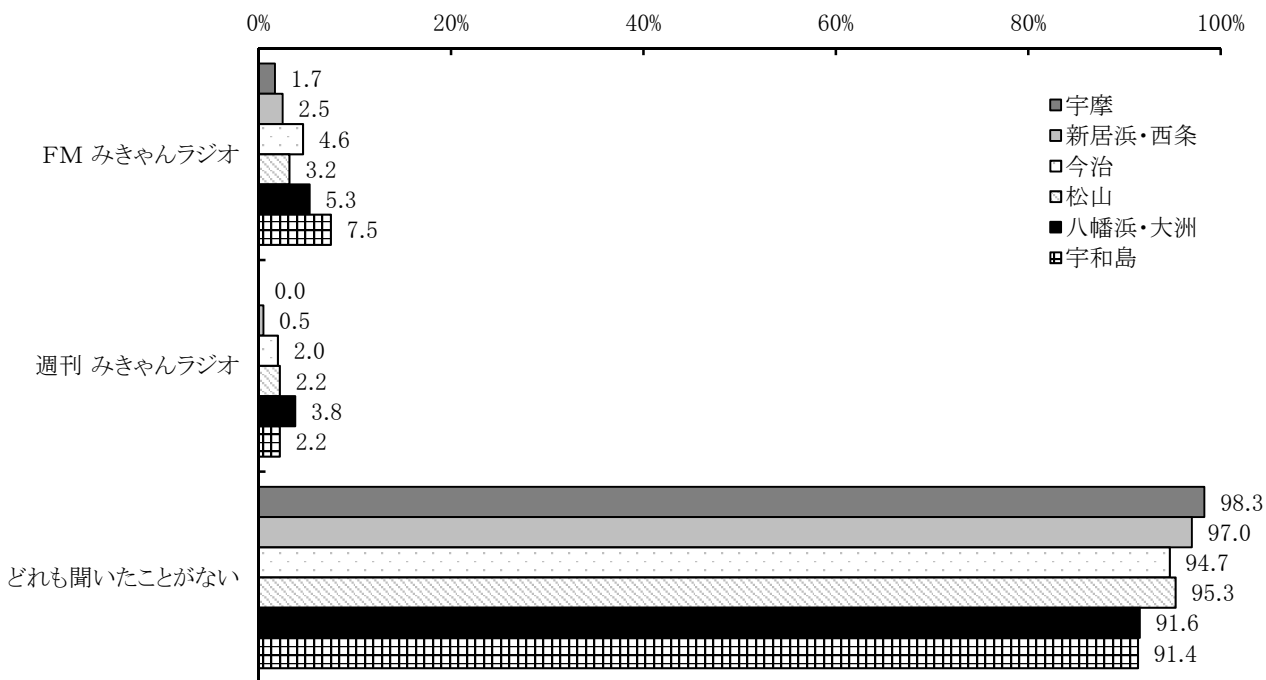
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「どれも聞いたことがない」と答えた人の割合は、圧倒的に多く、9割を超えている。前回調査と比較すると、「どれも聞いたことがない」と答えた人の割合は、20歳代以下では2.5ポイント、70歳代以上では0.7ポイント減少しているが、30歳代では2.9ポイント、40歳代では3.2ポイント、60歳代では1.3ポイント増加している。



【生活圏域別】

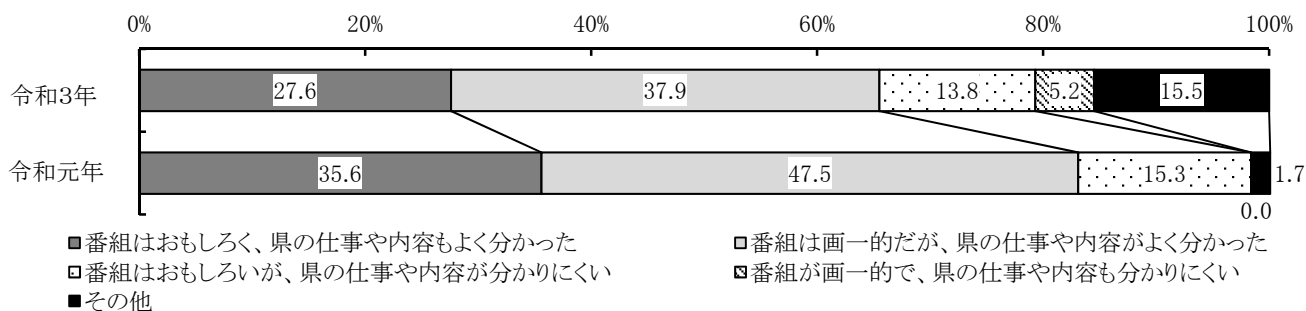
生活圏域別にみると、全ての圏域で、「どれも聞いたことがない」と答えた人の割合は、圧倒的に多く、9割を超え、前回調査と比較すると、新居浜・西条圏域では5.8ポイント増加し、八幡浜・大洲圏域では4.7ポイント減少している。



《ラジオ広報番組を聞いての感想》

県のラジオ広報番組を聞いたことがある人に、その感想を聞くと、「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合が37.9%と最も多く、以下「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」(27.6%)、「番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい」(13.8%)などの順となっている。

また、前回調査と比較すると、「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合は、9.6ポイント、「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」は、8.0ポイント減少しており、「県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合を合計すると65.5%と前回調査より、17.6ポイント減少している。



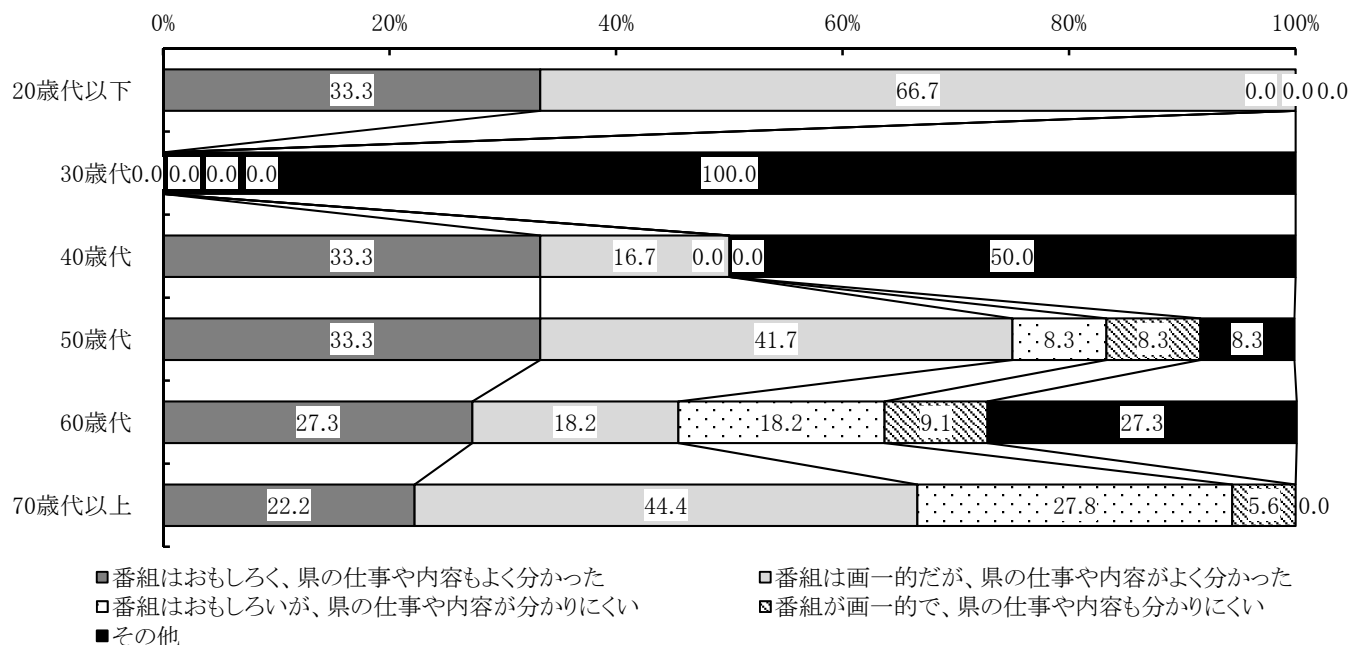
【年齢別】

年齢別にみると、40歳代及び60歳代では、「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」と答えた人の割合が最も多く、20歳代以下、50歳代及び70歳代以上では「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」が最も多くなっている。

また、前回調査と比較すると、60歳代を除く全ての年齢層で、「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」と答えた人の割合が減少している。

なお、「県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合の合計は、20歳代以下で特に多くなっている。

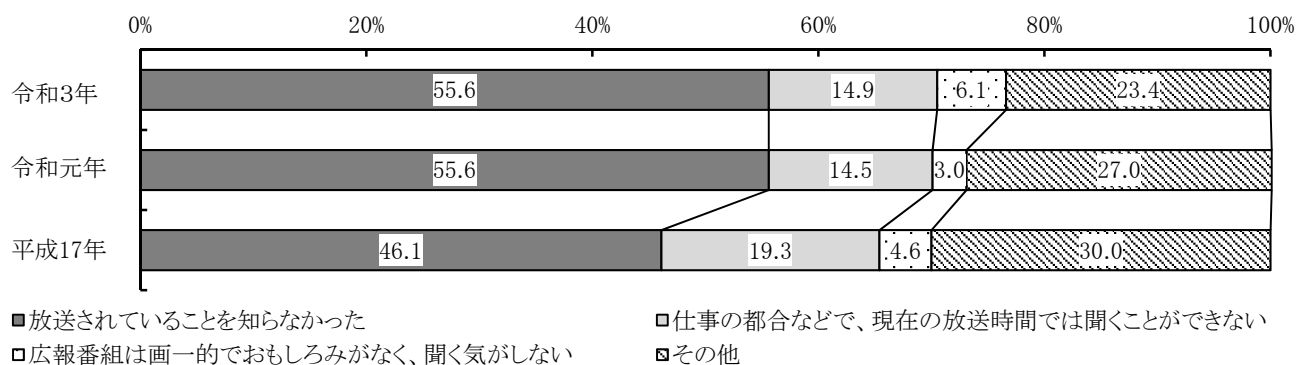
※40歳代以下の回答者数は10人未満であり、回答割合にバラつきがある。



《聞いたことがない理由》

県のラジオ広報番組について、「どれも聞いたことがない」と答えた人に、その理由を聞くと、「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合が55.6%と最も多く、以下「仕事の都合などで、現在の放送時間では聞くことができない」(14.9%)、「広報番組は画一的でおもしろみがなく、聞く気がしない」(6.1%)となっている。

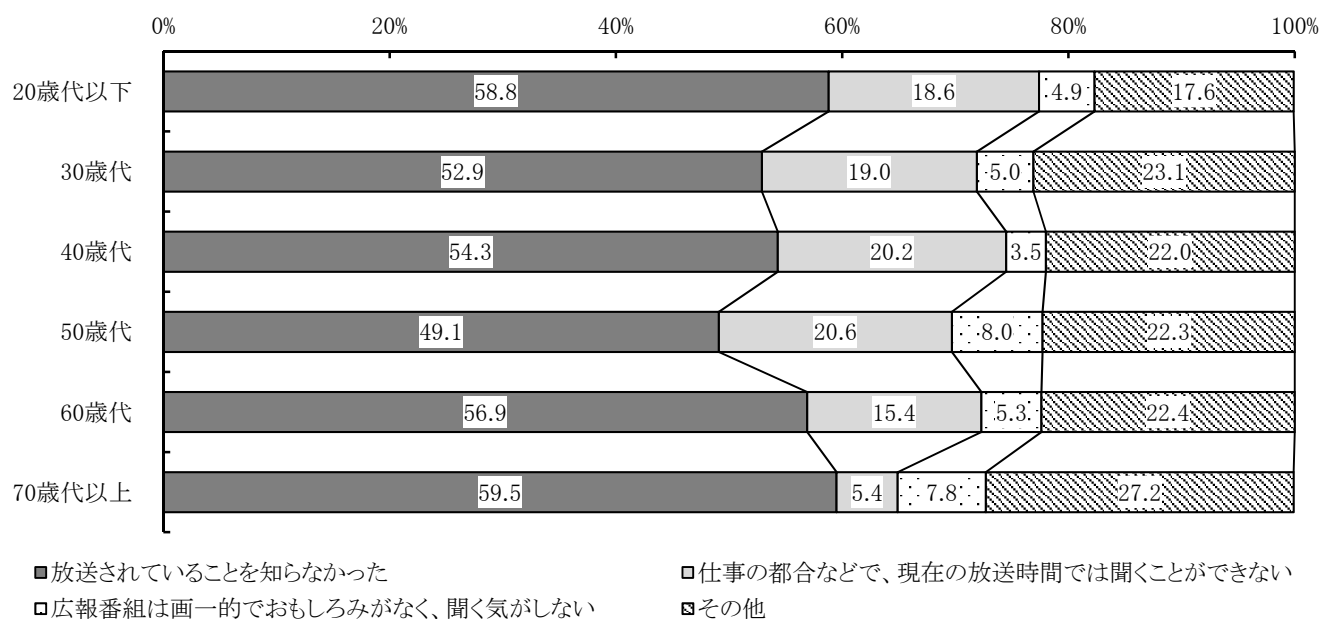
また、前回調査と比較すると、「広報番組は画一的でおもしろみがなく、聞く気がしない」と答えた人の割合は、3.1ポイント増加している。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合が最も多くなっている。

特に前回調査と比較して、20歳代以下で、「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合が、15.0ポイントと大きく減少している。



問 17 広報紙の周知度

県では、県政の様々な情報を県民の皆さんにお知らせするため、毎月1回、広報紙「愛顔のえひめ」を発行し、新聞折り込みなどで各ご家庭に直接お届けしています。

あなたは、この広報紙をご存じでしたか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

		(%)
1	知っていた	49.9
2	知らなかった	50.1

それでは、あなたは、この広報紙「愛顔のえひめ」をどの程度読んでいますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

《広報紙への関心度》

(回答者=607人) (%)

1	全体をよく読んでいる	15.5
2	興味のあるところを選んで読んでいる	46.1
3	見出し程度しか読まない	20.9
4	ほとんど読むことはない	13.2
5	まったく読まない	4.3

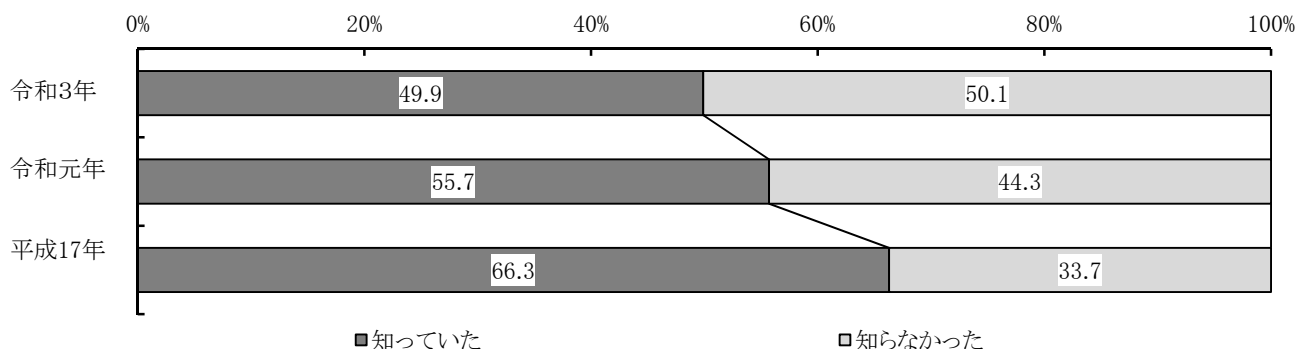
《広報紙を見ての感想》

(回答者=566人) (単数回答) (%)

1	紙面は見やすく、情報量も適当である	57.1
2	紙面は見づらいが、情報量は適当である	11.5
3	紙面は見やすいが、情報量が少ない	16.4
4	紙面は見づらく、情報量も少ない	3.2
5	その他	11.8

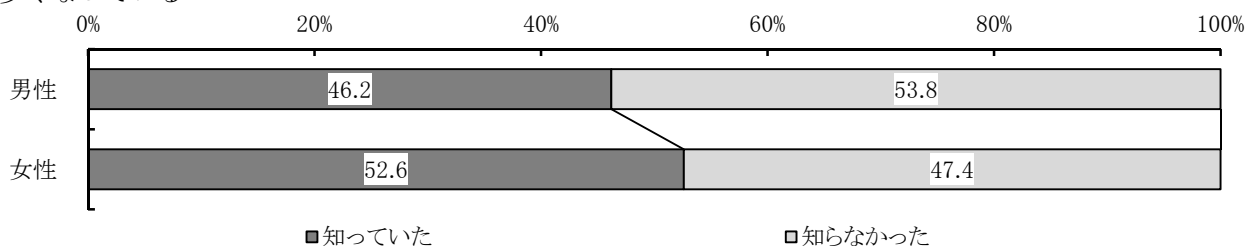
広報紙「愛顔のえひめ」を知っているかどうかを聞いたところ、「知っていた」と答えた人の割合は49.9%で、「知らなかった」の50.1%より0.2ポイント少なくなっている。

また、前回調査と比較すると、「知らなかった」と答えた人の割合は、5.8ポイント増加している。



【性別】

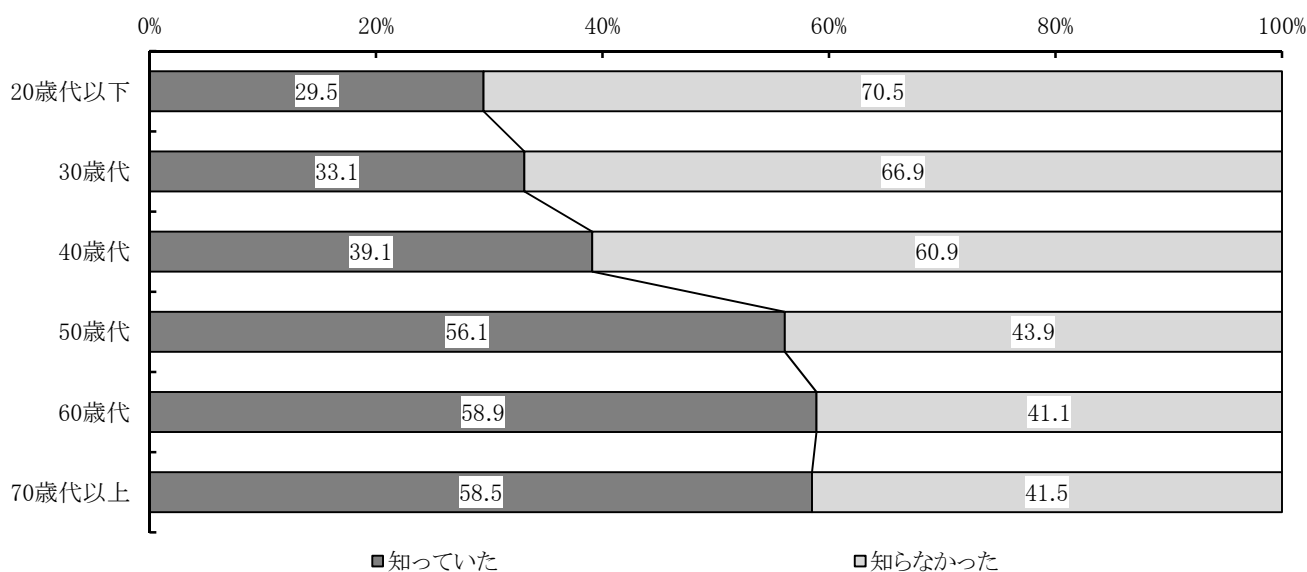
性別にみると、「知っていた」と答えた人の割合は、女性（52.6%）の方が男性（46.2%）より6.4ポイント多くなっている



【年齢別】

年齢別にみると、50歳代以上では「知っていた」と答えた人の割合が5割を超えており、40歳代以下と比較して多くなっている。

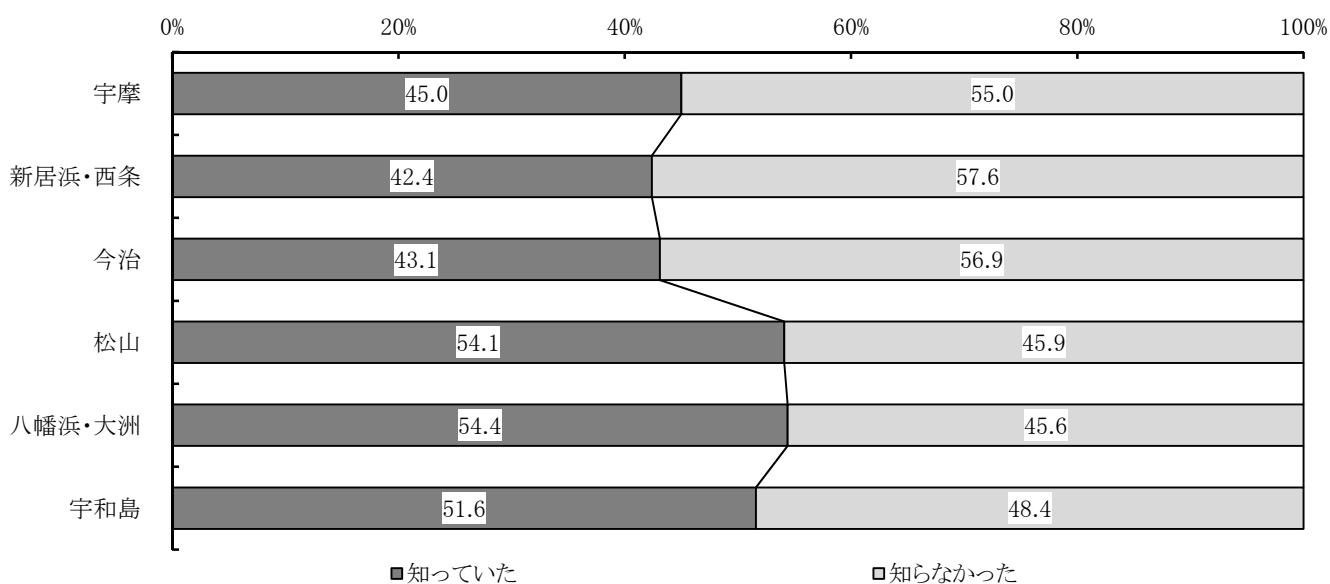
また、前回調査と比較すると、「知っていた」と答えた人の割合は、50歳代を除く全ての年齢層で減少している。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、松山圏域、八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域では、「知っていた」と答えた人の割合が5割を超え、宇摩圏域、新居浜・西条圏域及び今治圏域では、「知らなかった」と答えた人の割合が、5割を超えている。

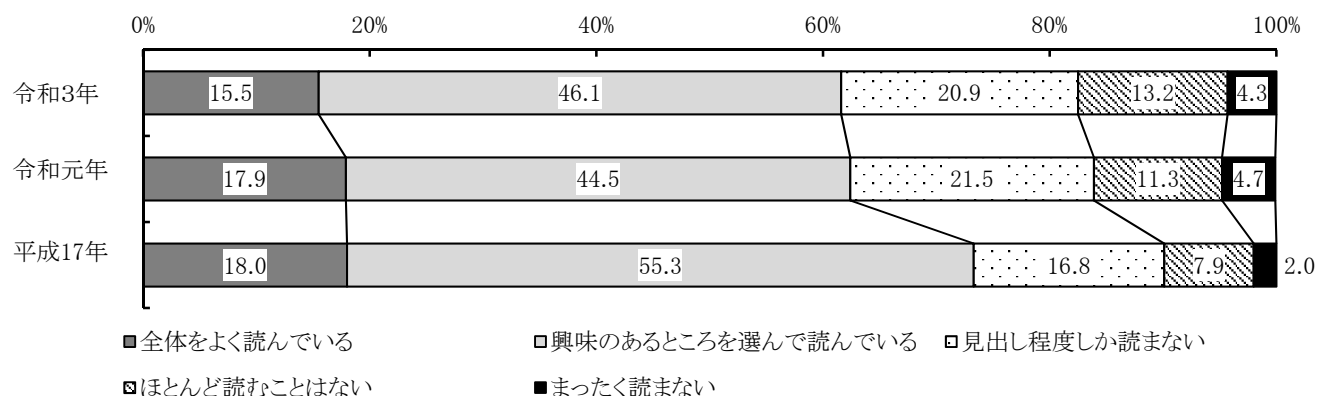
また、前回調査と比較すると、全ての圏域で、「知っていた」と答えた人の割合は、減少しており、特に新居浜・西条圏域では13.7ポイントと大きく減少している。



《広報紙への関心度》

広報紙を「知っていた」と答えた人に、どの程度読んでいるかを聞いたところ、「興味のあるところを選んで読んでいる」と答えた人の割合が46.1%と最も多く、以下「見出し程度しか読まない」(20.9%)、「全体をよく読んでいる」(15.5%)となっている。

また、前回調査と比較すると、「全体をよく読んでいる」と答えた人の割合は、2.4ポイント減少し、「興味のあるところを選んで読んでいる」は、1.6ポイント増加している。

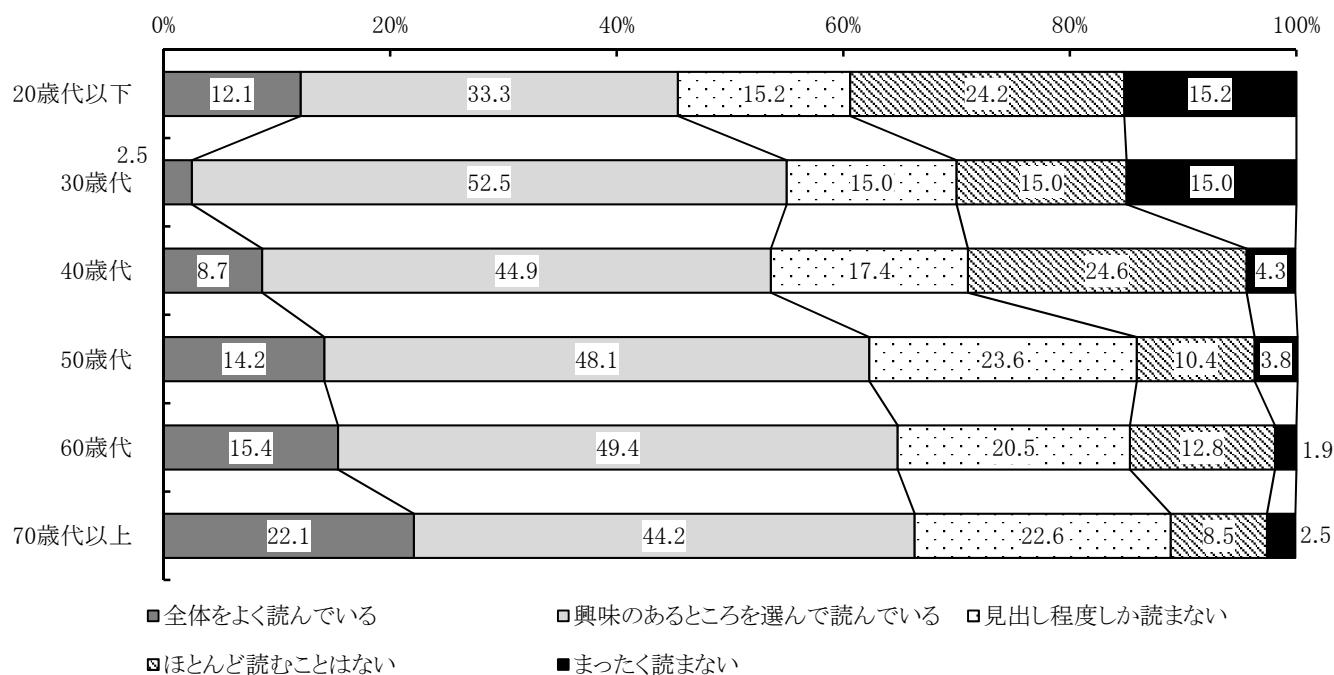


【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「興味のあるところを選んで読んでいる」と答えた人の割合が最も多く、中でも30歳代では52.5%と他の年齢層と比較して多くなっている。

また、前回調査と比較すると20歳代以下を除く全ての年齢層で「全体をよく読んでいる」と答えた人の割合が減少している。

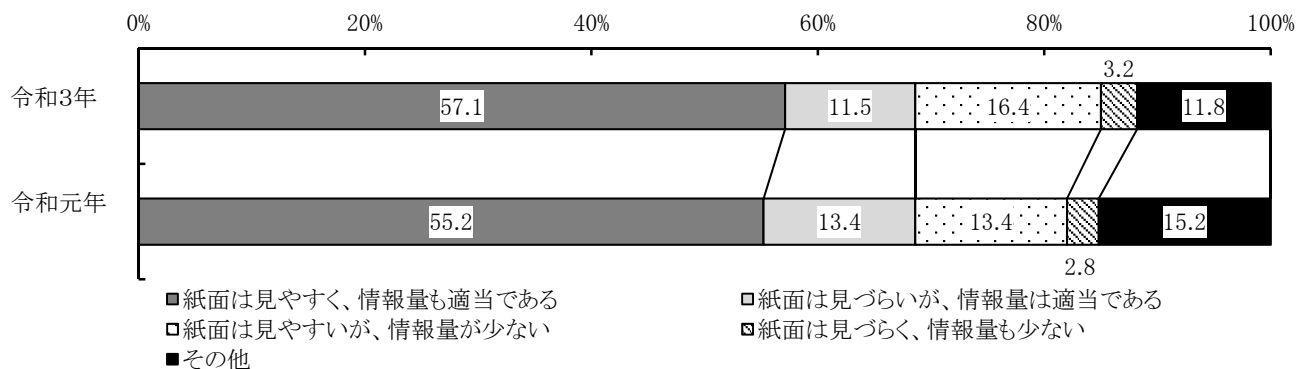
この他、「読まない」(「ほとんど読むことはない」と「まったく読まない」の合計。)と答えた人の割合は、40歳代では13.1ポイント増と特に増加している。



《広報紙を見ての感想》

広報紙を見ての感想を聞いたところ、「紙面は見やすく、情報量も適当である」と答えた人の割合が57.1%と最も多く、以下「紙面は見やすいが、情報量が少ない」(16.4%)、「紙面は見づらいが、情報量は適当である」(11.5%)、「紙面は見づらく、情報量も少ない」(3.2%)となっている。

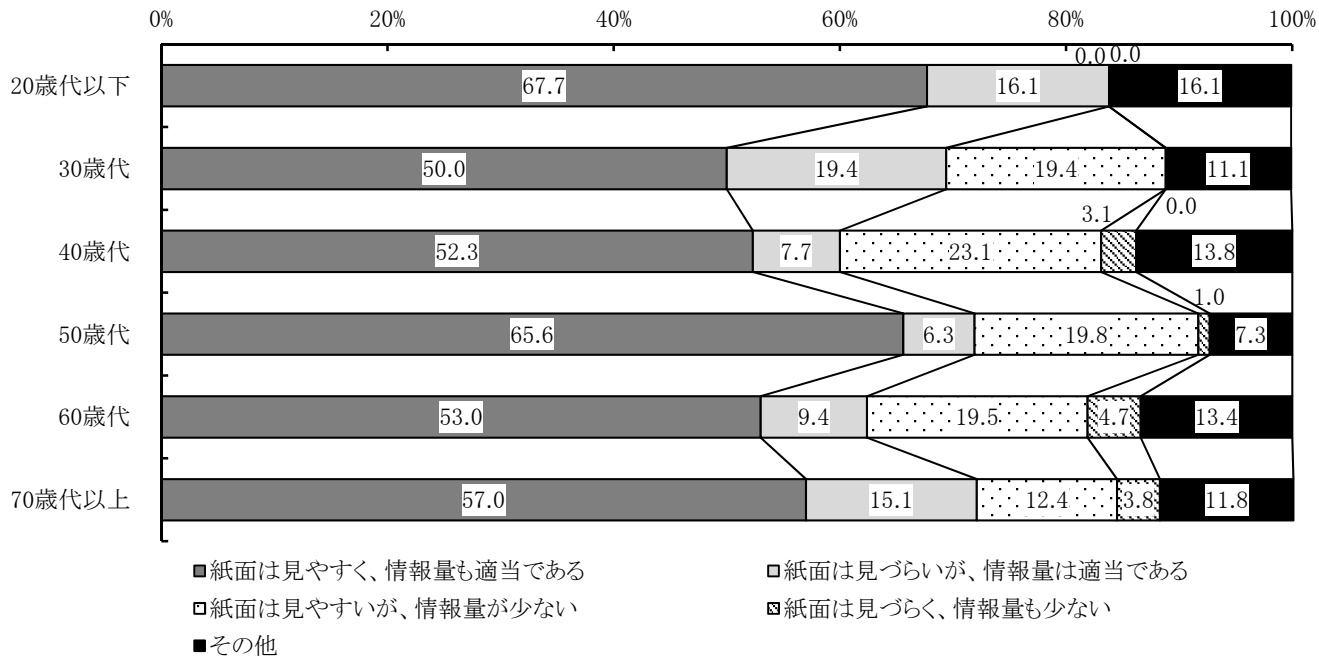
また、前回調査と比較すると、「紙面は見やすく、情報量も適当である」と答えた人の割合は、1.9ポイント増加し、「紙面は見やすいが、情報量が少ない」は、3.0ポイント増加している。「情報量は適当である」と答えた人の割合を合計すると68.6%と、変化は見られない。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「紙面は見やすく、情報量も適当である」と答えた人の割合が最も多く、中でも20歳代以下(67.7%)及び50歳代(65.6%)では他の年齢層と比較して特になくなっている。

また、前回調査と比較すると「紙面は見やすく、情報量も適当である」と答えた人の割合は、50歳代では15.6ポイント増加し、40歳代では11.1ポイント減少している。一方、「紙面は見やすいが、情報量が少ない」と答えた人の割合は、30歳代では14.5ポイント、40歳代では18.2ポイント増加している。

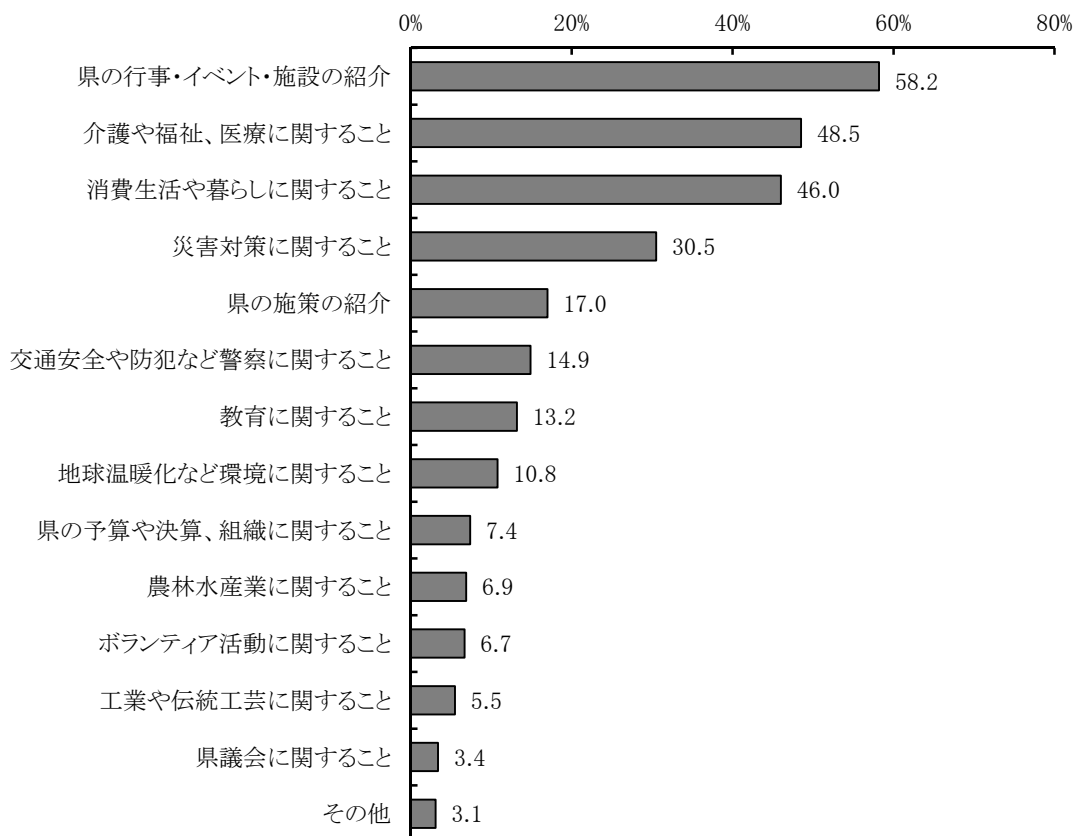


問 18 広報紙で取り上げるテーマの希望

広報紙「愛顔のえひめ」について、今後、どのようなテーマを取り上げてほしいですか。次の中から三つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 県の施策の紹介		17.0
2 県の行事・イベント・施設の紹介		58.2
3 県の予算や決算、組織に関する事		7.4
4 介護や福祉、医療に関する事		48.5
5 教育に関する事		13.2
6 消費生活や暮らしに関する事		46.0
7 地球温暖化など環境に関する事		10.8
8 ボランティア活動に関する事		6.7
9 災害対策に関する事		30.5
10 農林水産業に関する事		6.9
11 工業や伝統工芸に関する事		5.5
12 交通安全や防犯など警察に関する事		14.9
13 県議会に関する事		3.4
14 その他		3.1

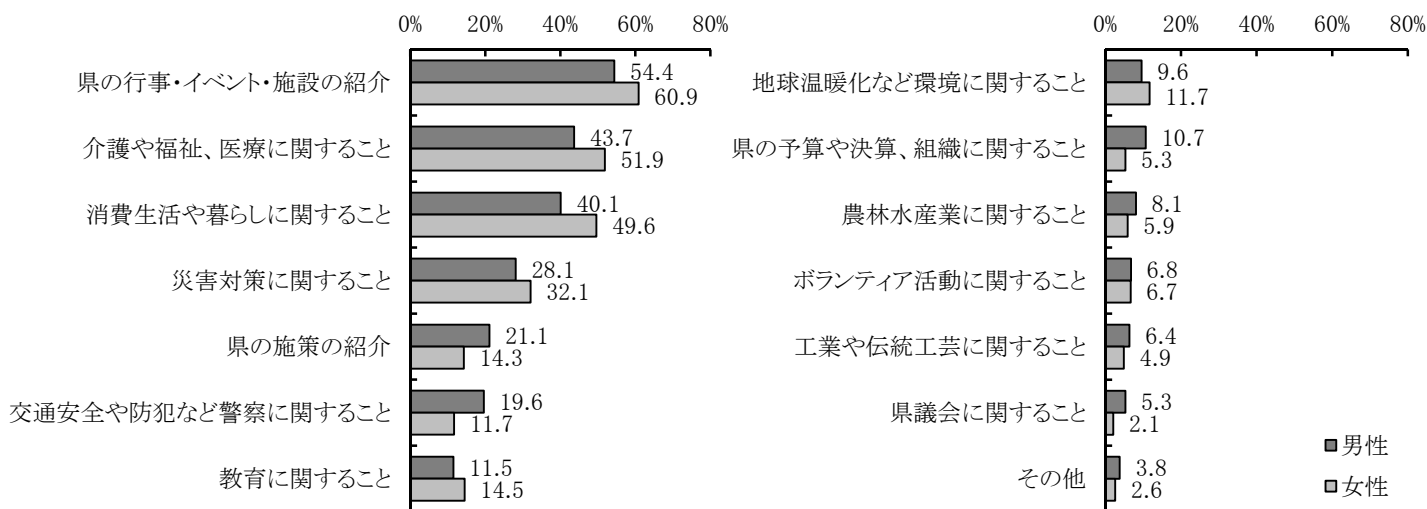
広報紙「愛顔のえひめ」にどのようなテーマを取り上げてほしいかを聞いたところ、「県の行事・イベント・施設の紹介」と答えた人の割合が58.2%と最も多く、以下「介護や福祉、医療に関する事」(48.5%)、「消費生活や暮らしに関する事」(46.0%)、「災害対策に関する事」(30.5%)、「県の施策の紹介」(17.0%)、「交通安全や防犯など警察に関する事」(14.9%)、「教育に関する事」(13.2%)などの順となっている。



【性別】

性別にみると、男女共に「県の行事・イベント・施設の紹介」と答えた人の割合が最も多く、女性（60.9%）の方が男性（54.4%）より6.5ポイント多くなっている。

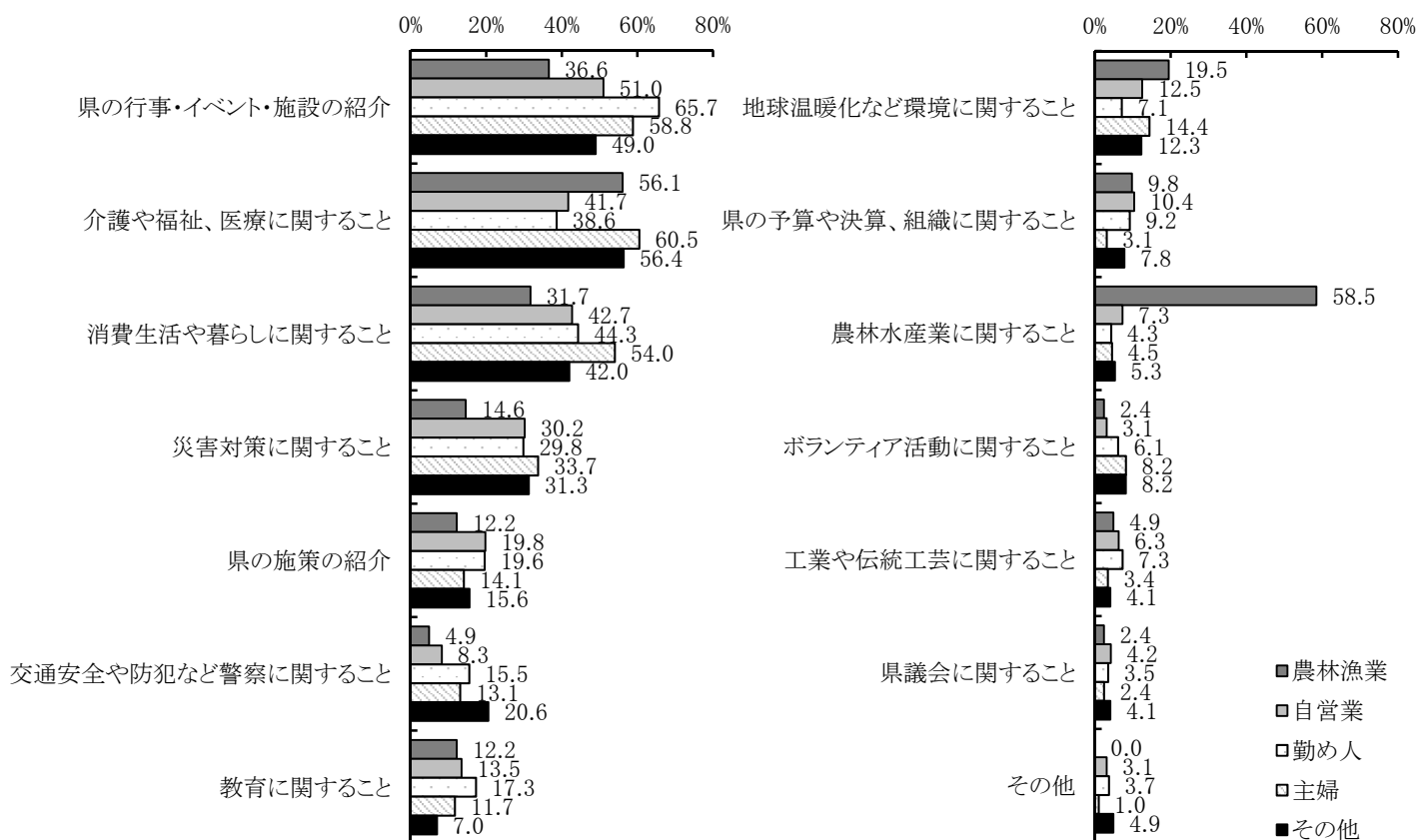
また、この他に女性の割合の方が多いのは、「介護や福祉、医療に関すること」、「消費生活や暮らしに関すること」、「災害対策に関すること」、「教育に関すること」などで、男性の割合の方が多いのは、「県の施策の紹介」、「交通安全や防犯など警察に関すること」などとなっている。



【職業別】

職業別にみると、自営業及び勤め人では「県の行事・イベント・施設の紹介」と答えた人の割合が最も多く、主婦では「介護や福祉、医療に関すること」が最も多くなっている。

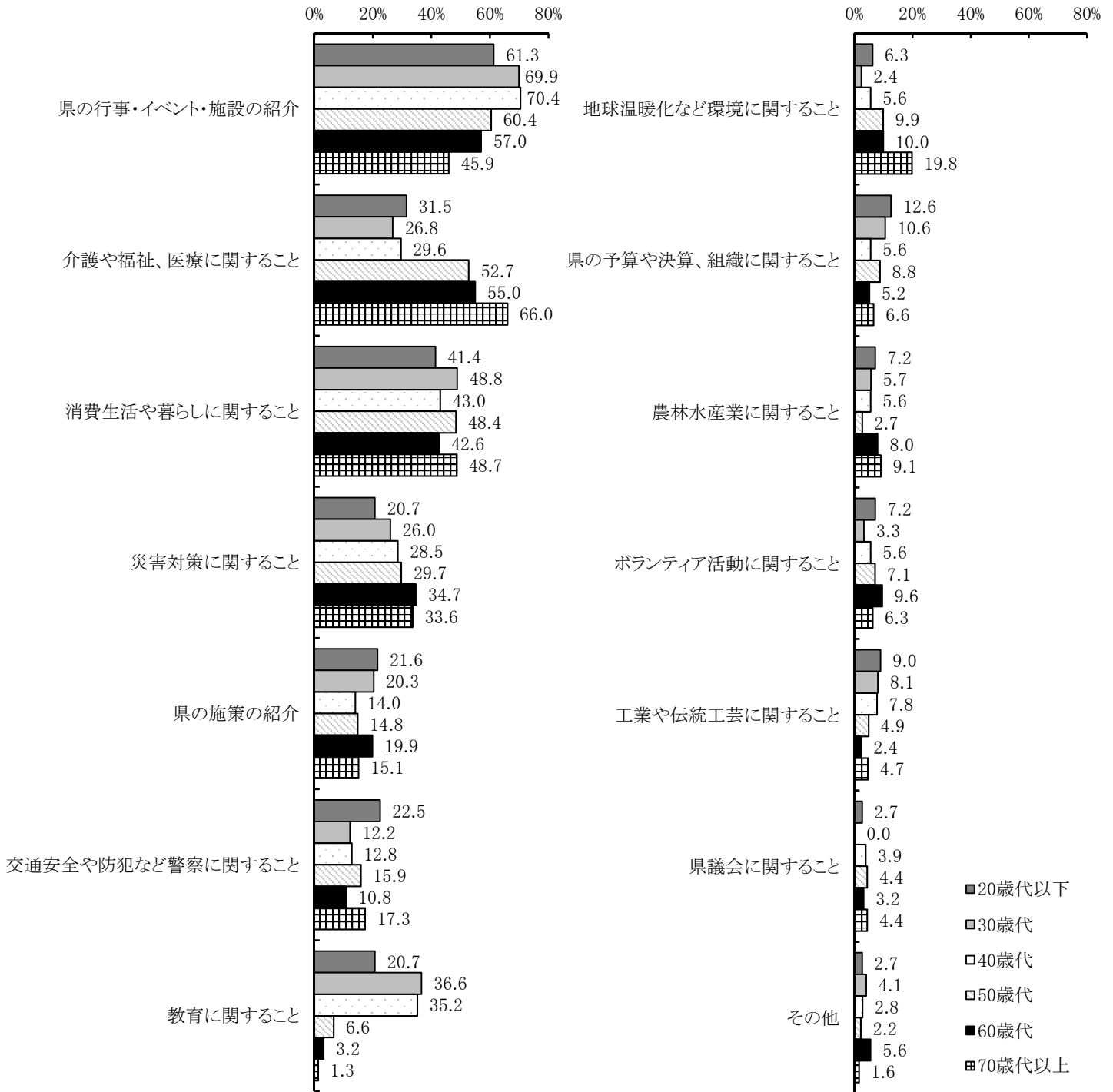
また、農林漁業では、「農林水産業に関すること」と答えた人の割合が、他の職種と比較して特に多くなっているが、「災害対策に関すること」は他の職種と比較して少なくなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、70歳代以上を除く全ての年齢層で、「県の行事・イベント・施設の紹介」と答えた人の割合が最も多く、70歳代以上では、「介護や福祉、医療に関すること」が最も多くなっている。

また、「教育に関すること」と答えた人の割合は、40歳代以下で他の年齢層と比較して多くなっている。



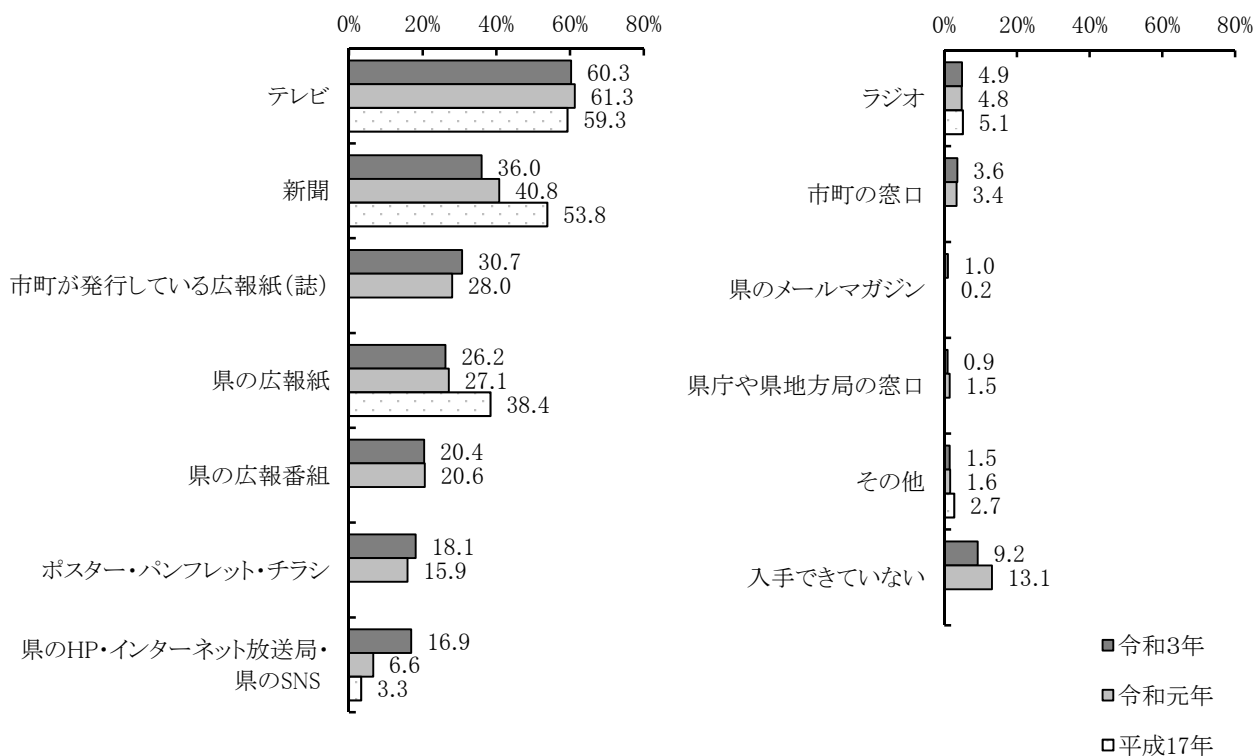
問 19 県政情報の情報源

あなたは、県の仕事や内容を主に何によって知ることが多いですか。次の中から三つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 県の広報紙		26.2
2 県の広報番組 (テレビ・ラジオ)		20.4
3 新聞		36.0
4 テレビ		60.3
5 ラジオ		4.9
6 県のホームページ・インターネット放送局・県の各種 SNS (LINE、Facebook、Twitter、Instagram)		16.9
7 県の各種メールマガジン		1.0
8 ポスター・パンフレット・チラシ		18.1
9 県庁や県地方局の窓口		0.9
10 市町の窓口		3.6
11 市町が発行している広報紙 (誌)		30.7
12 その他		1.5
13 入手できていない		9.2

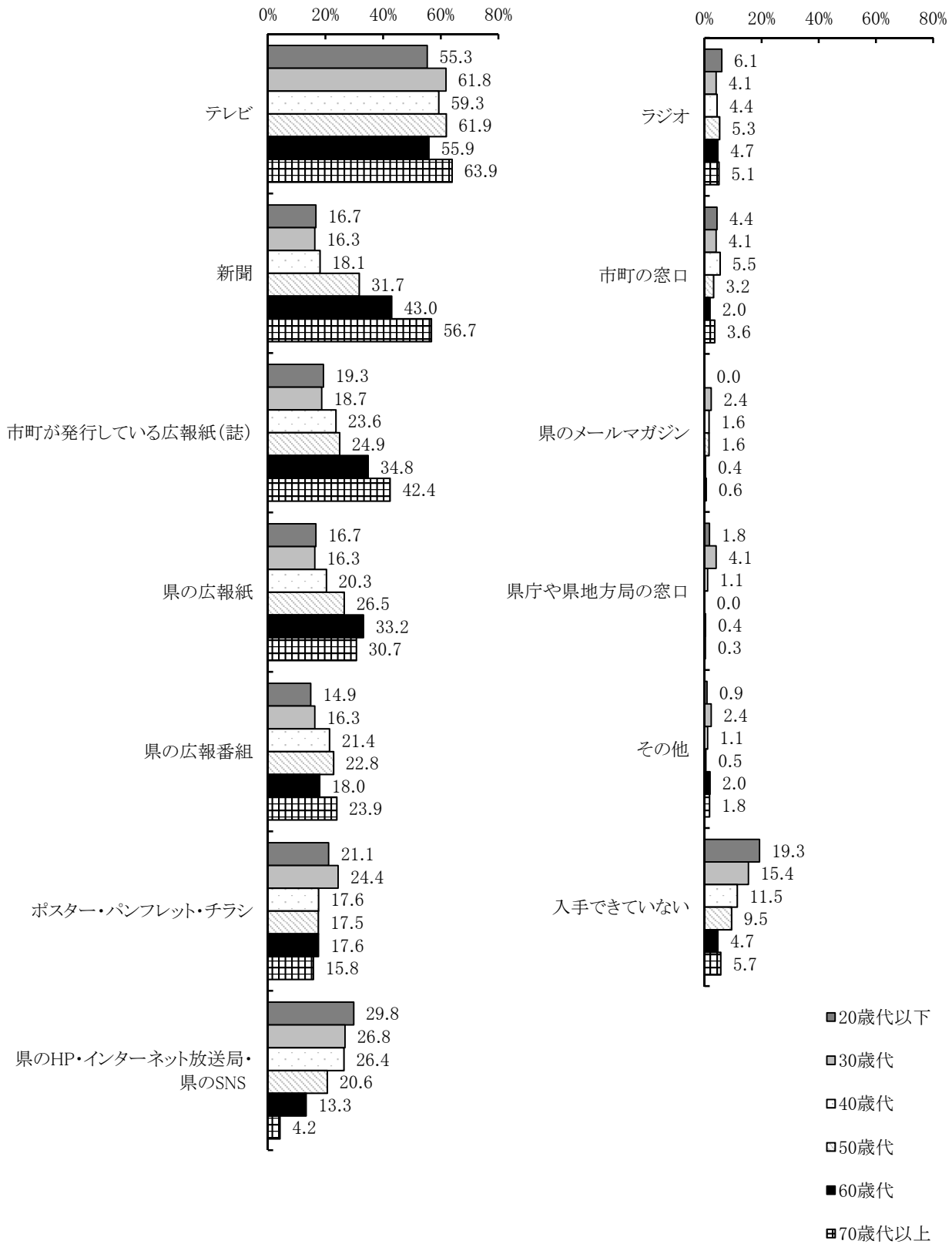
県の仕事や内容を主に何によって知ることが多いかを聞いたところ、「テレビ」と答えた人の割合が60.3%と最も多く、以下「新聞」(36.0%)、「市町が発行している広報紙 (誌)」(30.7%)、「県の広報紙」(26.2%)などの順となっている。

また、前回調査と比較すると、「新聞」と答えた人の割合は、4.8ポイント減少しているが、「県のホームページ・インターネット放送局・県の各種SNS (LINE、Facebook、Twitter、Instagram)」は、10.3ポイント増加している。



【年齢別】

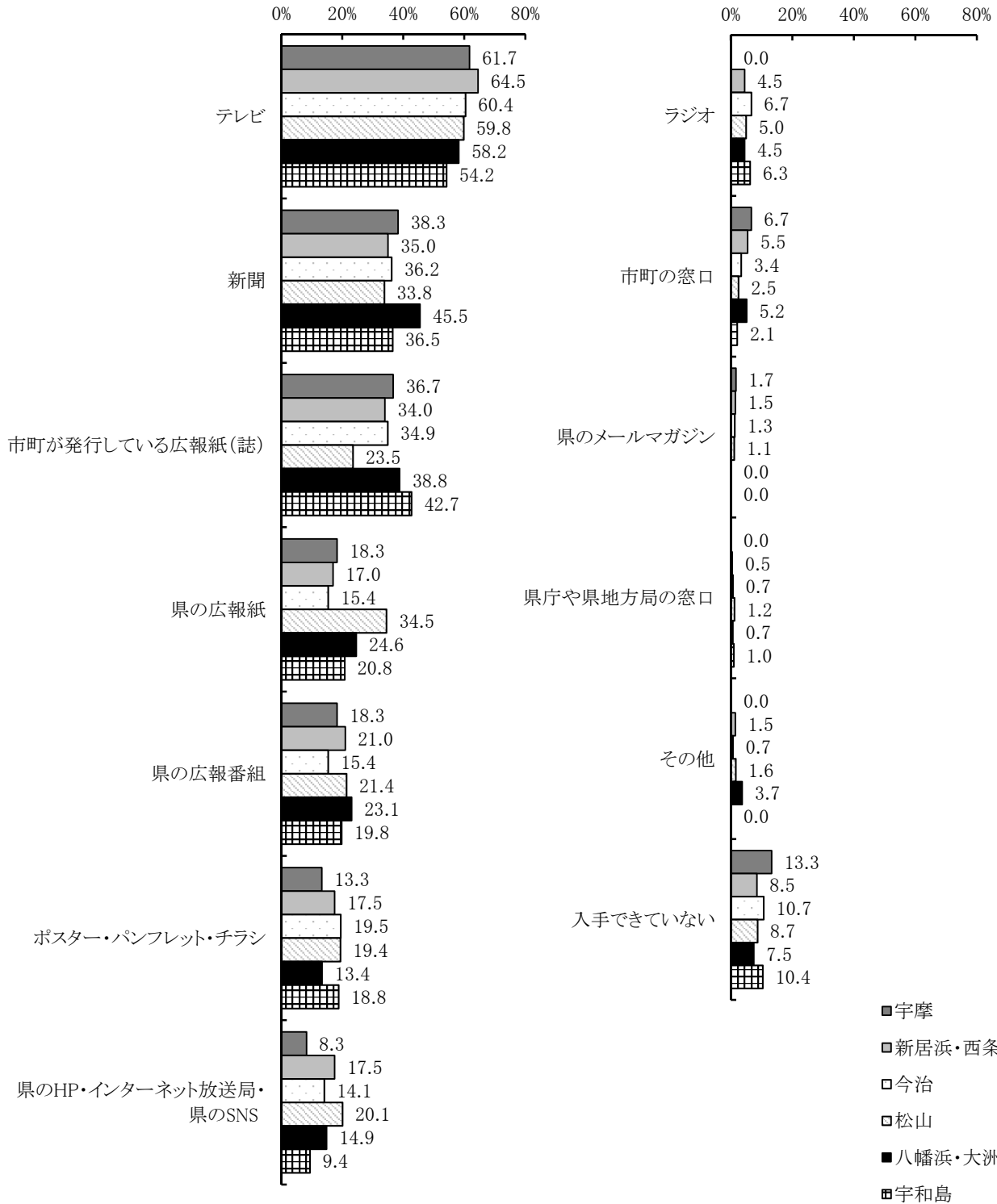
年齢別にみると、全ての年齢層で、「テレビ」と答えた人の割合が最も多く、5割を超えている。次いで50歳代以上では、「新聞」と答えた人の割合が多く、特に70歳代以上では5割を超えている。同様に40歳代以下では「県のホームページ・インターネット放送局・県の各種SNS（LINE、Facebook、Twitter、Instagram）」と答えた人の割合が多くなっており、前回調査と比較すると、全ての年齢層で増加している。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「テレビ」と答えた人の割合が、5割を超え、最も多くなっている。次いで、松山圏域及び宇和島圏域を除く全ての圏域で「新聞」と答えた人の割合が多くなっている。

また、前回調査と比較すると、全ての圏域で、「県のホームページ・インターネット放送局・県の各種SNS（LINE、Facebook、Twitter、Instagram）」と答えた人の割合が増加し、宇摩圏域を除く全ての圏域で、「新聞」と答えた人の割合が減少している。

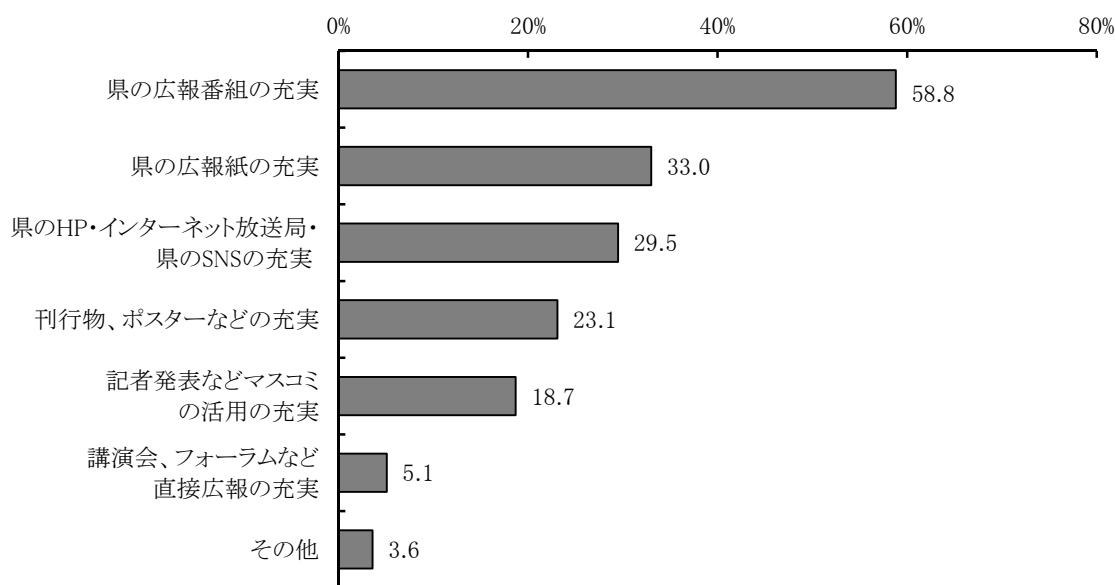


問 20 今後の広報活動の取組み

あなたは、より多くの県民の方が県政に関する情報を得るためには、どのような広報に取り組みが良いと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 県の広報紙の充実（発行回数やページ数の増）		33.0
2 県の広報番組（テレビ・ラジオ）の充実（放送回数や放送時間の増）		58.8
3 記者発表などマスコミの活用の充実		18.7
4 講演会、フォーラム、県政出前講座など直接広報の充実		5.1
5 県のホームページ・インターネット放送局・県の各種 SNS の充実		29.5
6 刊行物、ポスター、パンフレットの充実（種類や部数の増）		23.1
7 その他		3.6

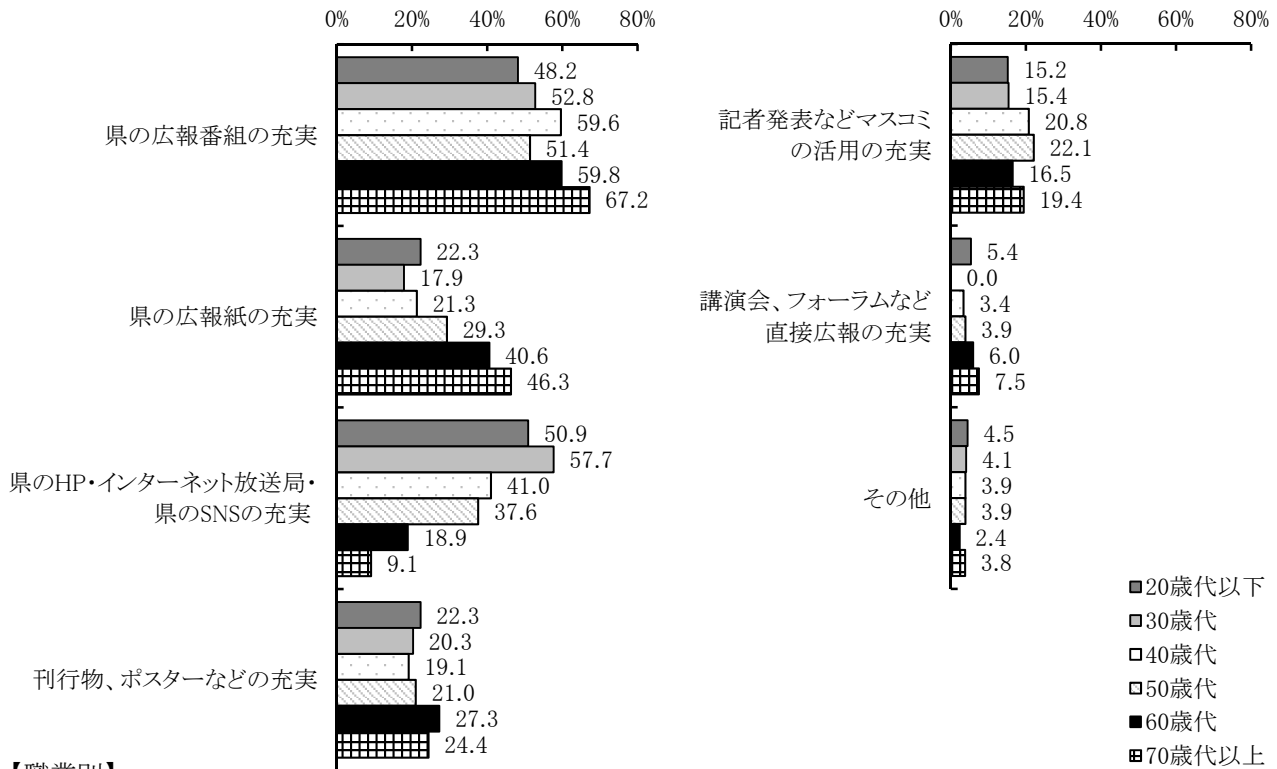
より多くの県民の方が県政に関する情報を得るためには、どのような広報に取り組みが良いと思うかを聞いたところ、「県の広報番組（テレビ・ラジオ）の充実」と答えた人の割合が58.8%と最も多く、以下「県の広報紙の充実」（33.0%）、「県のホームページ・インターネット放送局・県の各種SNSの充実」（29.5%）、「刊行物、ポスター、パンフレットの充実」（23.1%）などの順となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、40歳代以上では「県の広報番組（テレビ・ラジオ）の充実」と答えた人の割合が最も多く、30歳代も5割を超えている。30歳代以下では「県のホームページ・インターネット放送局・県の各種SNSの充実」と答えた人の割合が最も多く、5割を超えている。

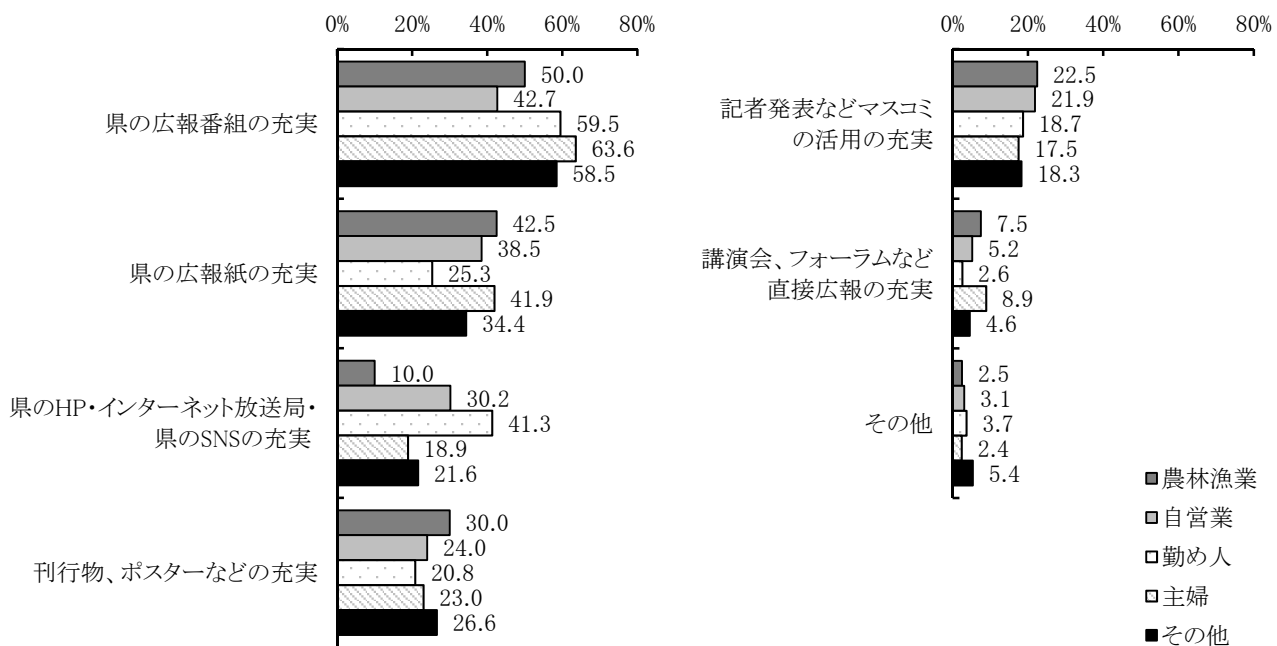
また、前回調査と比較すると、「県のホームページ・インターネット放送局・県の各種SNSの充実」と答えた人の割合は、30歳代では27.1ポイント、50歳代では16.9ポイント、40歳代では14.7ポイントと大幅に増加している。



【職業別】

職業別にみると、全ての職種で、「県の広報番組（テレビ・ラジオ）の充実」と答えた人の割合が最も多く、次いで勤め人を除く全ての職種で、「県の広報紙の充実」が多くなっている。勤め人では、他の職種と比較して「県のホームページ・インターネット放送局・県の各種SNSの充実」と答えた人の割合が特に多くなっている。

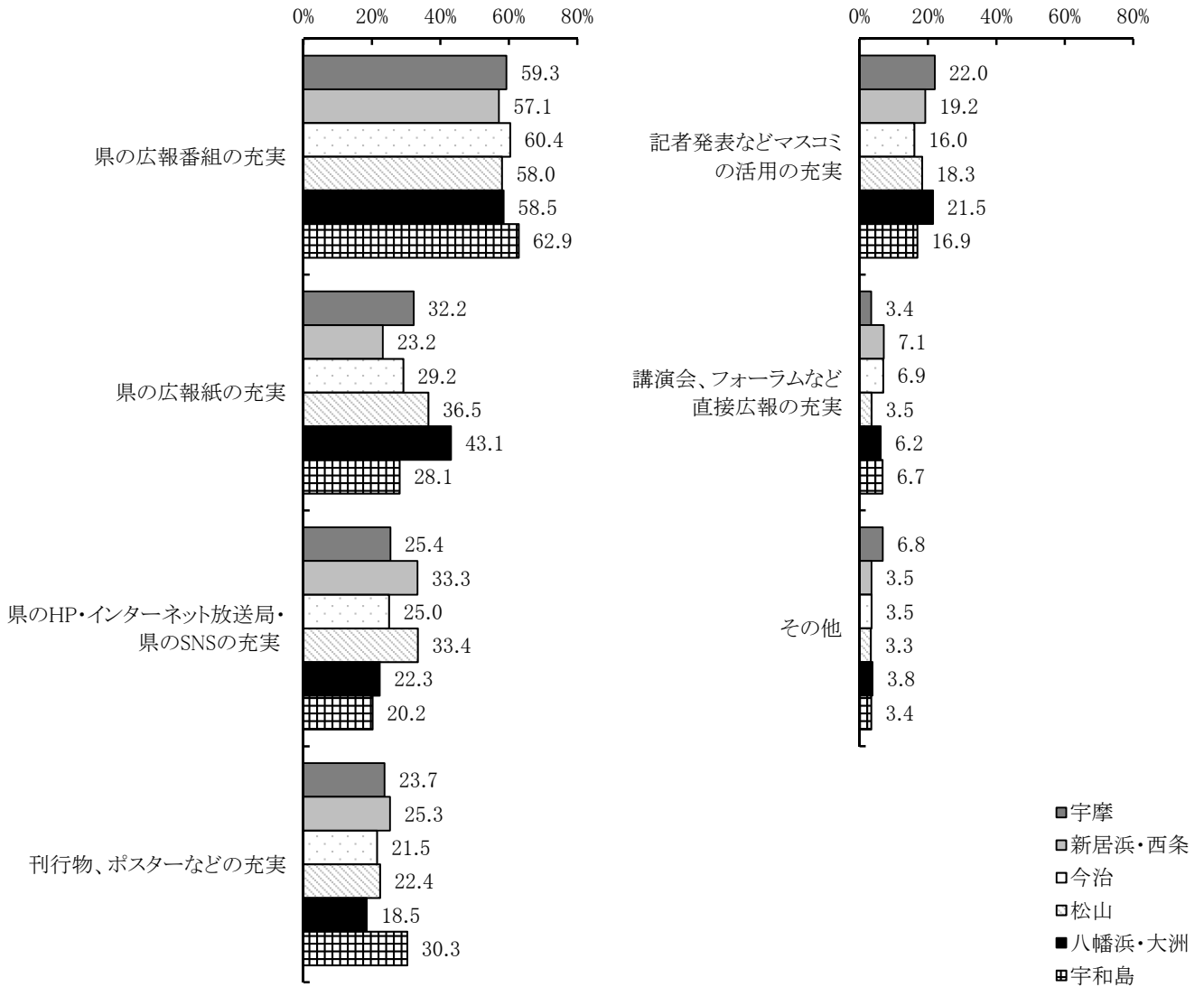
また、前回調査と比較すると、「県のホームページ・インターネット放送局・県の各種SNSの充実」と答えた人の割合は、勤め人で15.4ポイント増加しており、「県の広報番組（テレビ・ラジオ）の充実」は、農林漁業で11.7ポイント、自営業で21.5ポイントと大幅に減少している。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で、「県の広報番組（テレビ・ラジオ）の充実」と答えた人の割合が最も多く、5割を超えている。特に今治圏域（60.4%）及び宇和島圏域（62.9%）では6割を超えて多くなっている。

また、前回調査と比較すると、全ての圏域で「県のホームページ・インターネット放送局・県の各種SNSの充実」と答えた人の割合が増加しており、新居浜・西条圏域（33.3%）及び松山圏域（33.4%）で特に多くなっている。八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域を除く全ての圏域で、「県の広報番組（テレビ・ラジオ）の充実（放送回数や放送時間の増）」と答えた人の割合が、増加している。



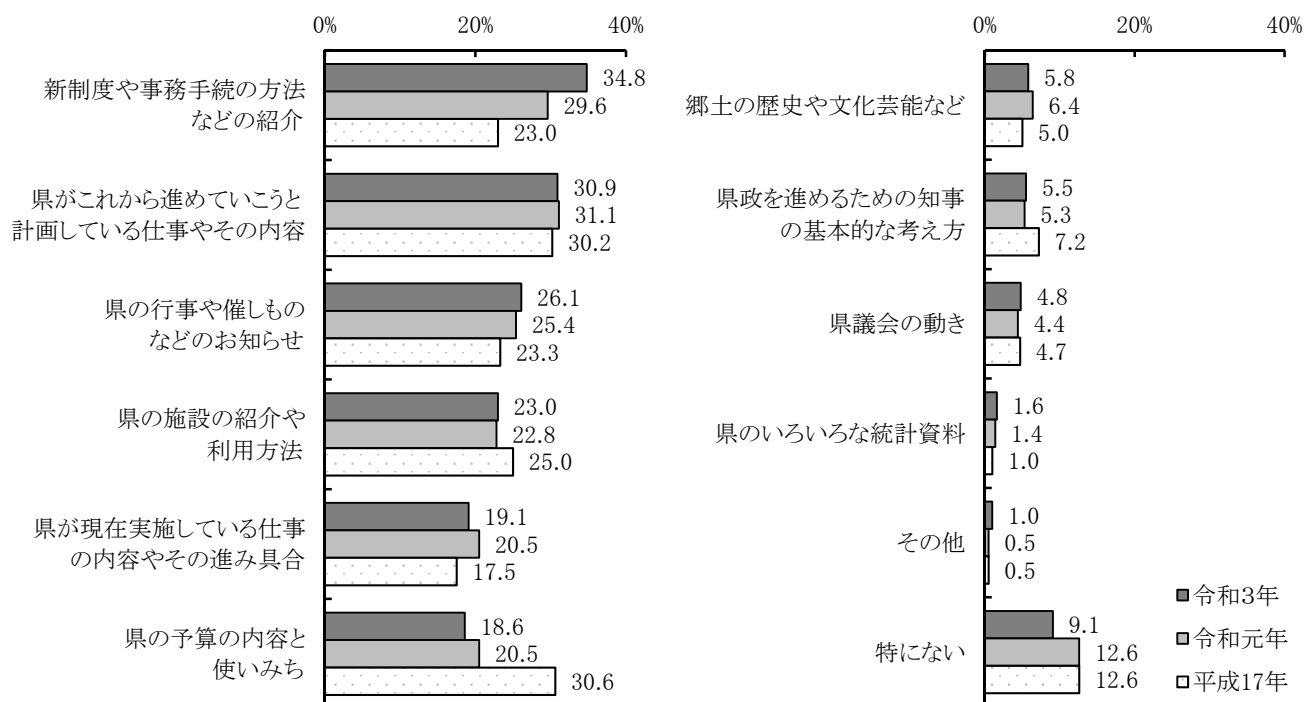
問 21 県政について知りたい情報

あなたが、県政について日頃から特に知りたいと思っていることはどのようなことですか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 県議会の動き		4.8
2 県の予算の内容と使いみち		18.6
3 県が現在実施している仕事の内容やその進み具合		19.1
4 新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介		34.8
5 県の施設の紹介や利用方法		23.0
6 県の行事や催しものなどのお知らせ		26.1
7 郷土の歴史や文化芸能など		5.8
8 県のいろいろな統計資料		1.6
9 県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容		30.9
10 県政を進めるための知事の基本的な考え方		5.5
11 その他		1.0
12 特にない		9.1

県政について日ごろから特に知りたいと思っていることを聞いたところ、「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」と答えた人の割合が34.8%と最も多く、以下「県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容」(30.9%)、「県の行事や催しものなどのお知らせ」(26.1%)、「県の施設の紹介や利用方法」(23.0%)、「県が現在実施している仕事の内容やその進み具合」(19.1%)、「県の予算の内容と使いみち」(18.6%)などの順となっている。

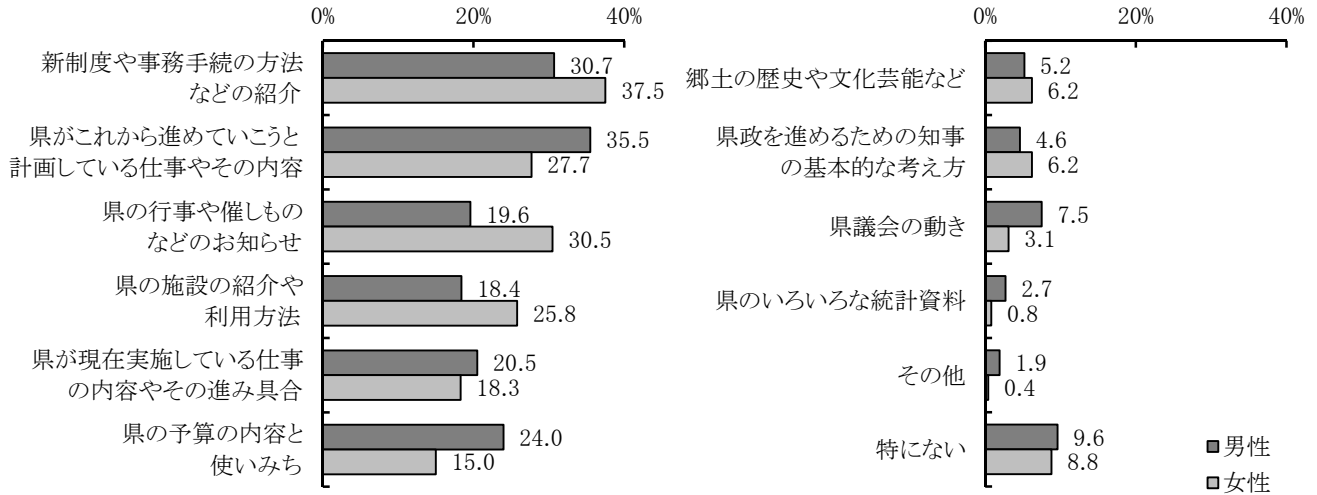
また、前回調査と比較すると、「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」と答えた人の割合は、5.2ポイント増加している。



【性別】

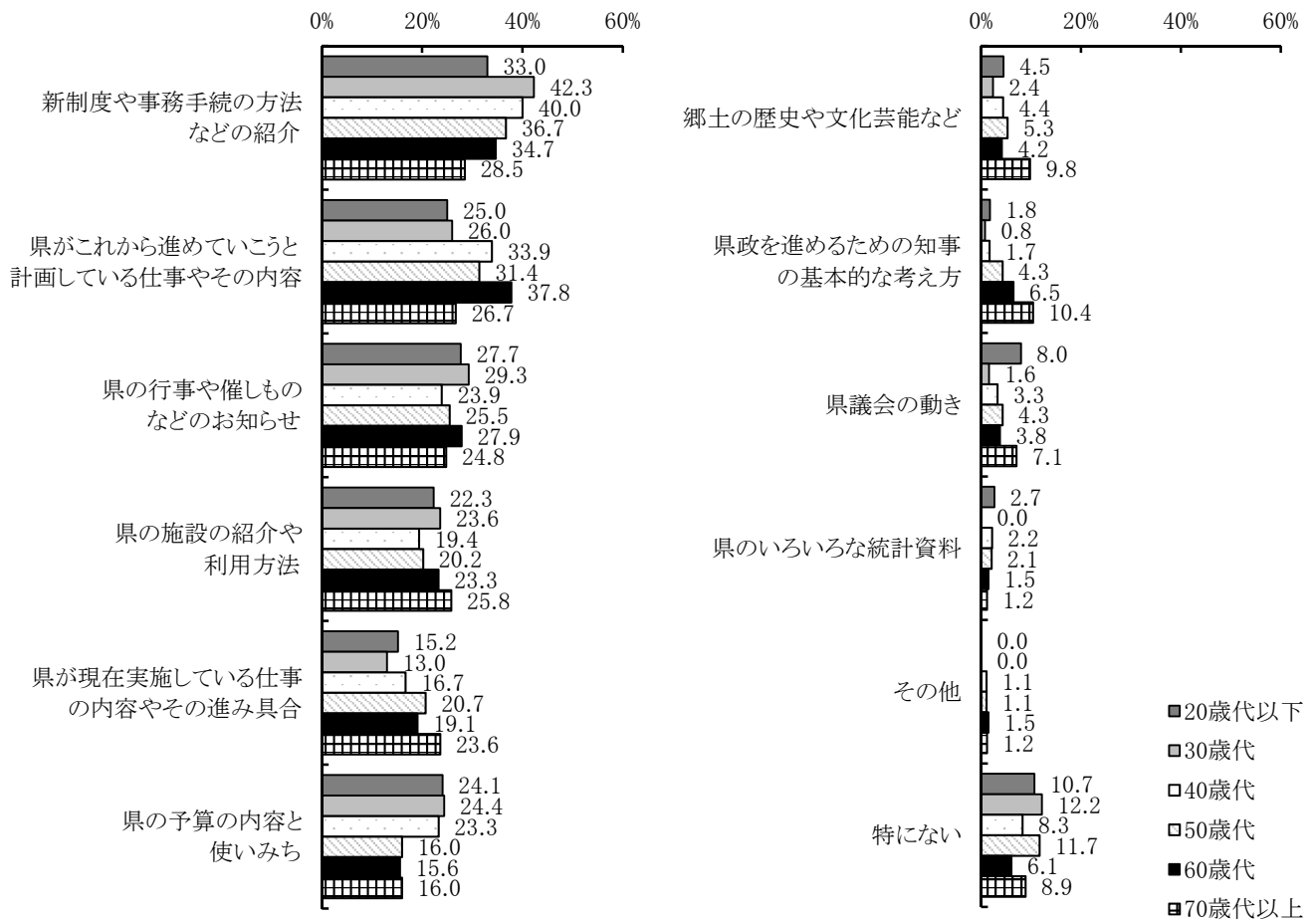
性別にみると、男性では「県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容」(35.5%)と答えた人の割合が最も多く、女性(27.7%)より7.8ポイント多くなっているが、女性では「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」(37.5%)が最も多く、男性(30.7%)より6.8ポイント多くなっている。

また、前回調査と比較すると「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」と答えた人の割合は、男性は7.2ポイント、女性は4.2ポイントと男女共に増加している。



【年齢別】

年齢別にみると、60歳代を除く全ての年齢層で、「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」と答えた人の割合が最も多くなっており、60歳代では、「県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容」が最も多くなっている。



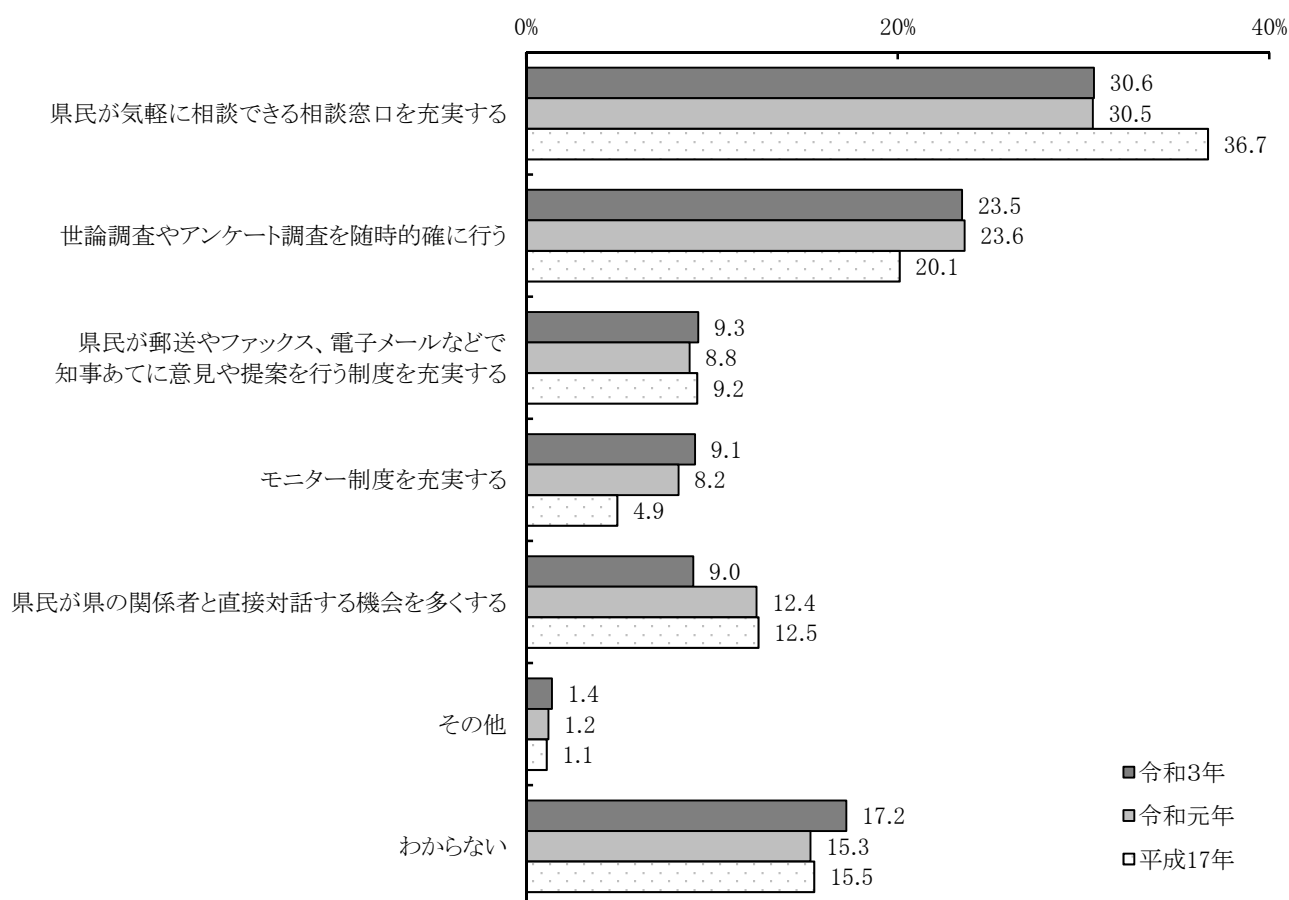
問 22 県民の声を県政に反映させる手段

あなたは、県民の皆さんからの意見や要望を県政に反映させる手段として、最も良いと思われるものは何ですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 世論調査やアンケート調査を随時的確に行う	23.5
2 県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする	9.0
3 モニター制度を充実する	9.1
4 県民が郵送やファックス、電子メールなどで知事あてに意見や提案を行う制度を充実する	9.3
5 県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する	30.6
6 その他	1.4
7 わからない	17.2

県民の意見や要望を県政に反映させる手段として、最も良いと思われる方法を聞いたところ、「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」と答えた人の割合が30.6%と最も多く、以下「世論調査やアンケート調査を随時的確に行う」(23.5%)、「県民が郵送やファックス、電子メールなどで知事あてに意見や提案を行う制度を充実する」(9.3%)、「モニター制度を充実する」(9.1%)などの順となっている。

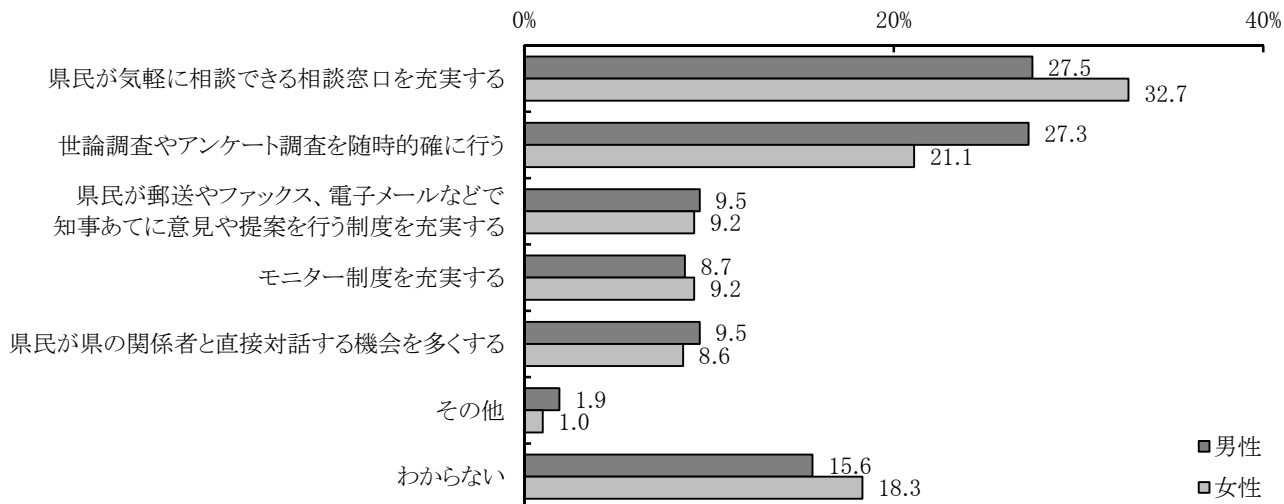
また、前回調査と比較すると、「県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする」と答えた人の割合は、3.4ポイント減少し、「モニター制度を充実する」は、0.9ポイント増加している。



【性別】

性別にみると、「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」と答えた人の割合は、女性（32.7%）の方が男性（27.5%）より5.2ポイント多くなっている。また、「世論調査やアンケート調査を随時的確に行う」と答えた人の割合は、男性（27.3%）の方が女性（21.1%）より6.2ポイント多くなっている。

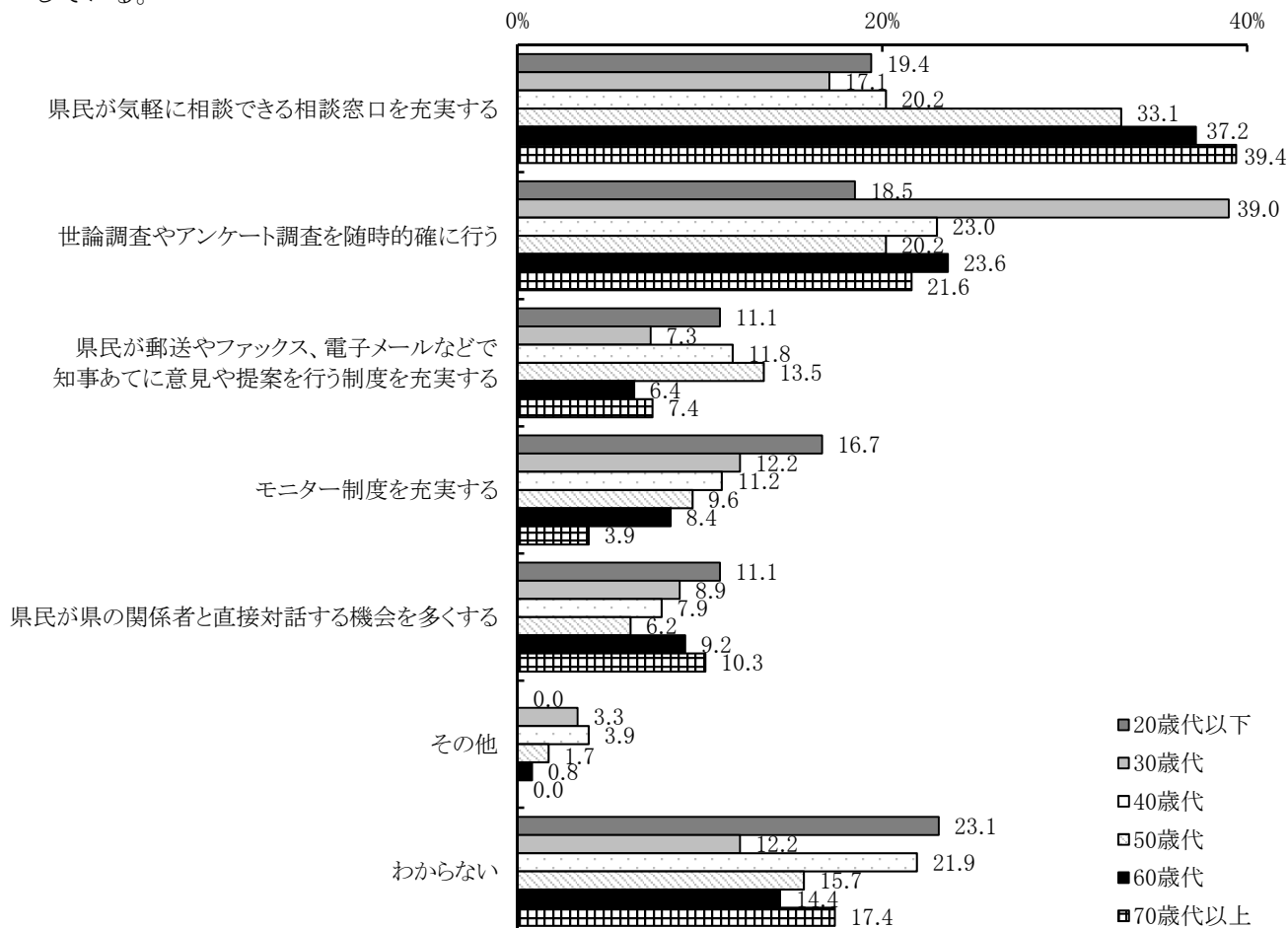
また、前回調査と比較すると、「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」と答えた人の割合は、男性で2.7ポイント増加し、「県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする」は8.6ポイント減少している。



【年齢別】

年齢別にみると、「わからない」を除くと20歳代以下及び50歳代以上では、「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」と答えた人の割合が最も多く、30歳代及び40歳代では、「世論調査やアンケート調査を随時的確に行う」が最も多くなっている。

また、前回調査と比較すると、「世論調査やアンケート調査を随時的確に行う」と答えた人の割合は、20歳代以下では12.6ポイント減少し、30歳代では11.5ポイント増加している。「県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする」と答えた人の割合は、50歳代では10.5ポイント、30歳代では10.4ポイント減少している。



問 23 県民の声の伝達方法

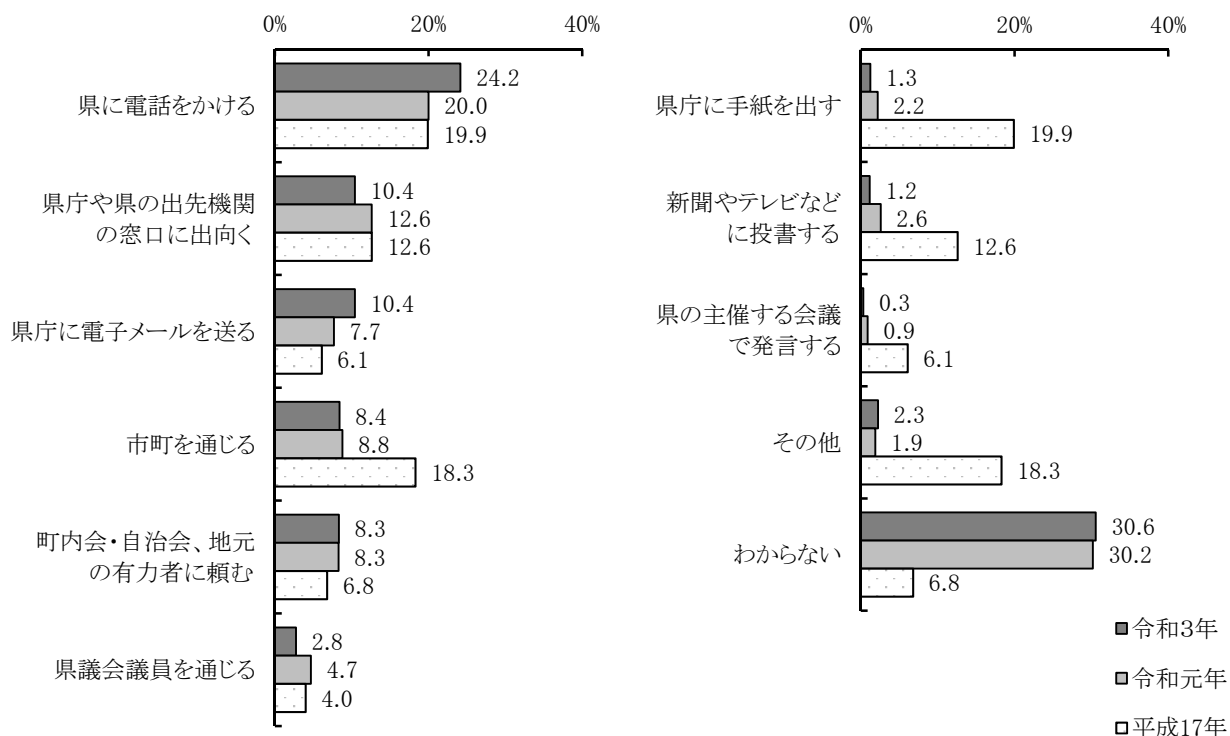
あなたは、県に意見、要望、苦情を伝えたいとき、どのような方法をとられますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 県庁や県の出先機関の窓口に出向く	10.4
2 県庁に手紙を出す	1.3
3 県庁に電子メールを送る	10.4
4 県に電話をかける	24.2
5 県の主催する会議で発言する	0.3
6 市町を通じる	8.4
7 町内会・自治会、地元の有力者に頼む	8.3
8 県議会議員を通じる	2.8
9 新聞やテレビなどに投書する	1.2
10 その他	2.3
11 わからない	30.6

県に意見や要望、苦情を伝えたいとき、どのような方法をとるかを聞いたところ、「県に電話をかける」と答えた人の割合が24.2%と最も多く、以下「県庁や県の出先機関の窓口に出向く」（10.4%）、「県庁に電子メールを送る」（10.4%）、「市町を通じる」（8.4%）などの順となっている。

なお、「わからない」と答えた人の割合は、30.6%を占めている。

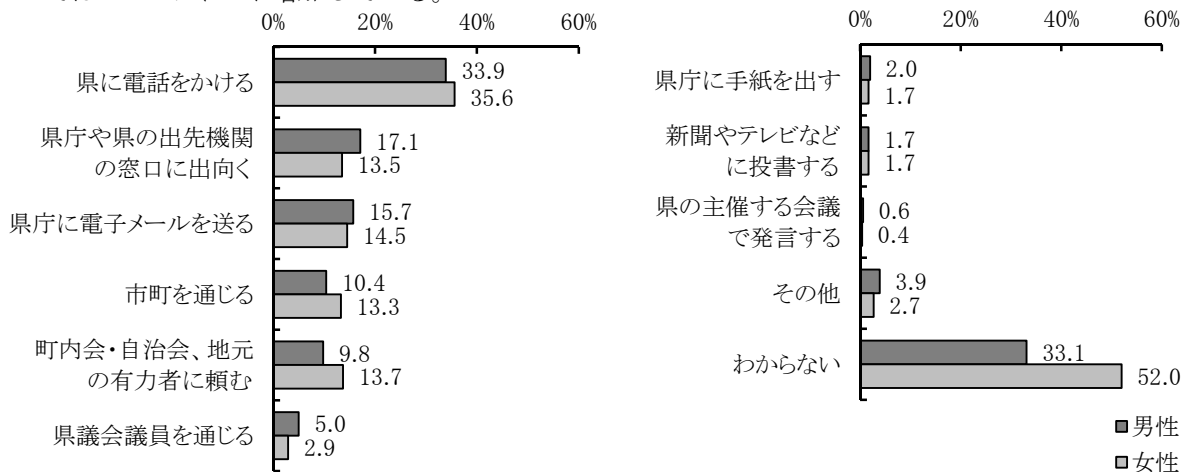
また、前回調査と比較すると、「県に電話をかける」と答えた人の割合は4.2ポイント、「県庁に電子メールを送る」が2.7ポイント増加している。一方、「県庁や県の出先機関の窓口に出向く」と答えた人の割合は、2.2ポイント減少している。



【性別】

性別にみると、男女共に「県に電話をかける」と答えた人の割合が最も多く、女性（35.6%）の方が男性（33.9%）より1.7ポイント多くなっている。「県庁や県の出先機関の窓口に出向く」と答えた人の割合は、男性（17.1%）の方が女性（13.5%）より3.6ポイント多く、「町内会・自治会、地元の有力者に頼む」は女性（13.7%）の方が男性（9.8%）より3.9ポイント多くなっている。

また、前回調査と比較すると「県に電話をかける」と答えた人の割合は、男性では11.7ポイント、女性では16.8ポイント増加している。

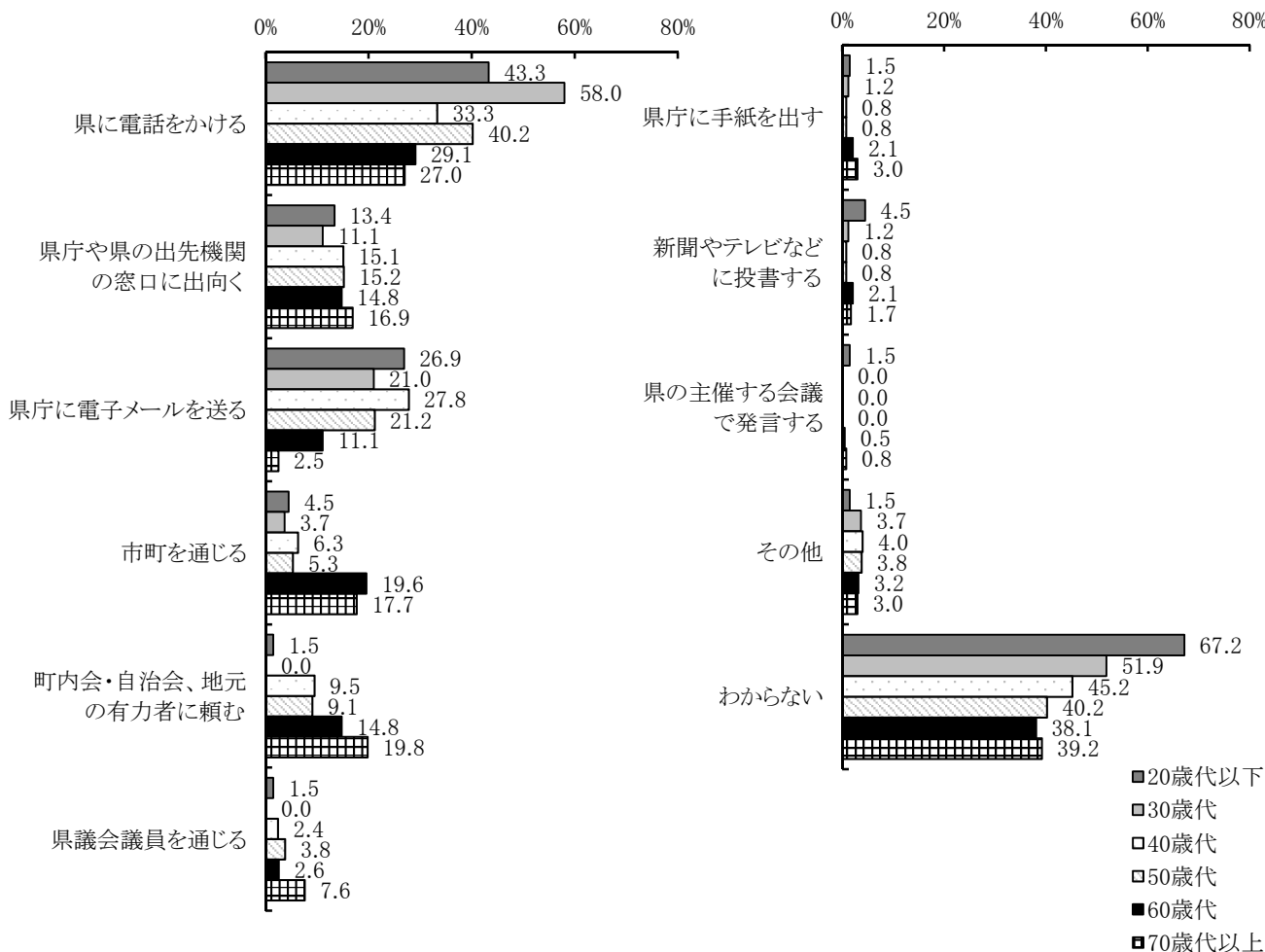


【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「県に電話をかける」と答えた人の割合が最も多くなっている。

なお、「わからない」と答えた人の割合は、20歳代以下（67.2%）及び30歳代（51.9%）で特に多くなっている。

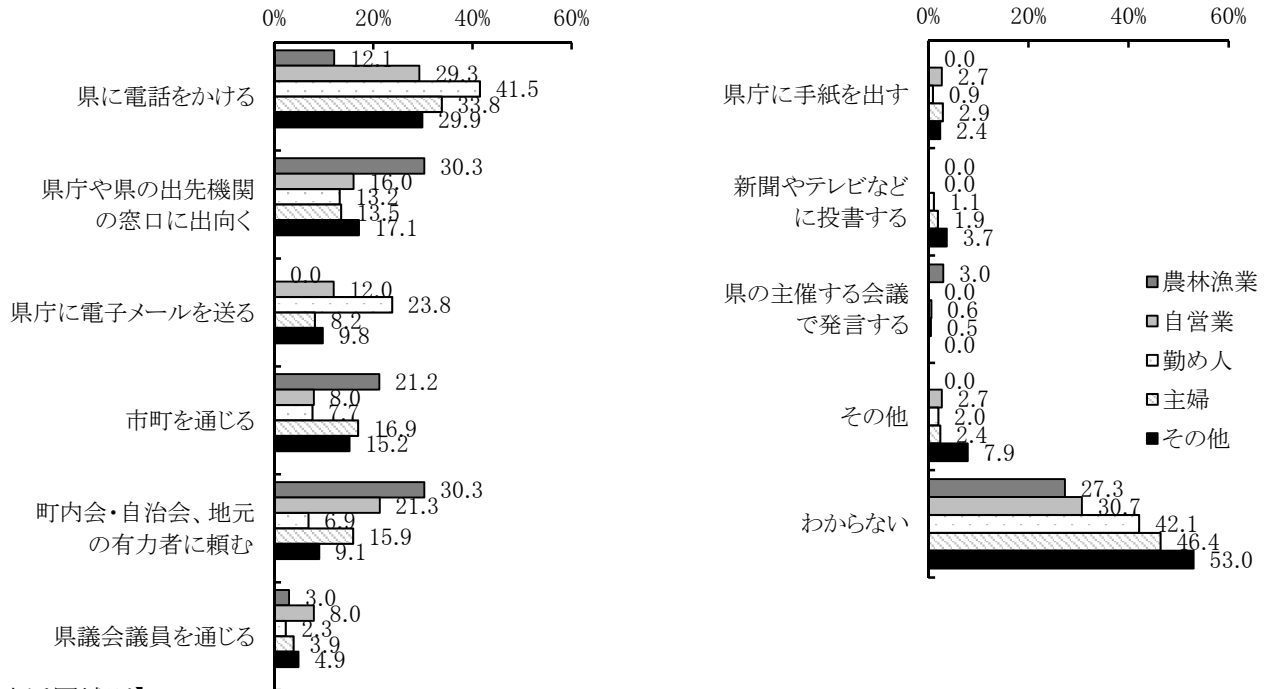
また、前回調査と比較すると、全ての年齢層で、「県庁に電話をかける」と答えた人の割合が増加しており、30歳代では38.0ポイント増加している。全ての年齢層で、「県庁に電子メールを送る」と答えた人の割合が増加しており、40歳代では17.0ポイント増加している。



【職業別】

職業別にみると、農林漁業を除く全ての職種で「県に電話をかける」と答えた人の割合が最も多くなっており、農林漁業では、「県庁や県の出先機関の窓口に出向く」及び「町内会・自治会、地元の有力者に頼む」が最も多く、他の職種と比較しても特に多くなっている。

また、前回調査と比較すると、全ての職種で、「県に電話をかける」と答えた人の割合が増加しており、特に、勤め人では17.3ポイント、主婦では15.9ポイントと大きく増加している。

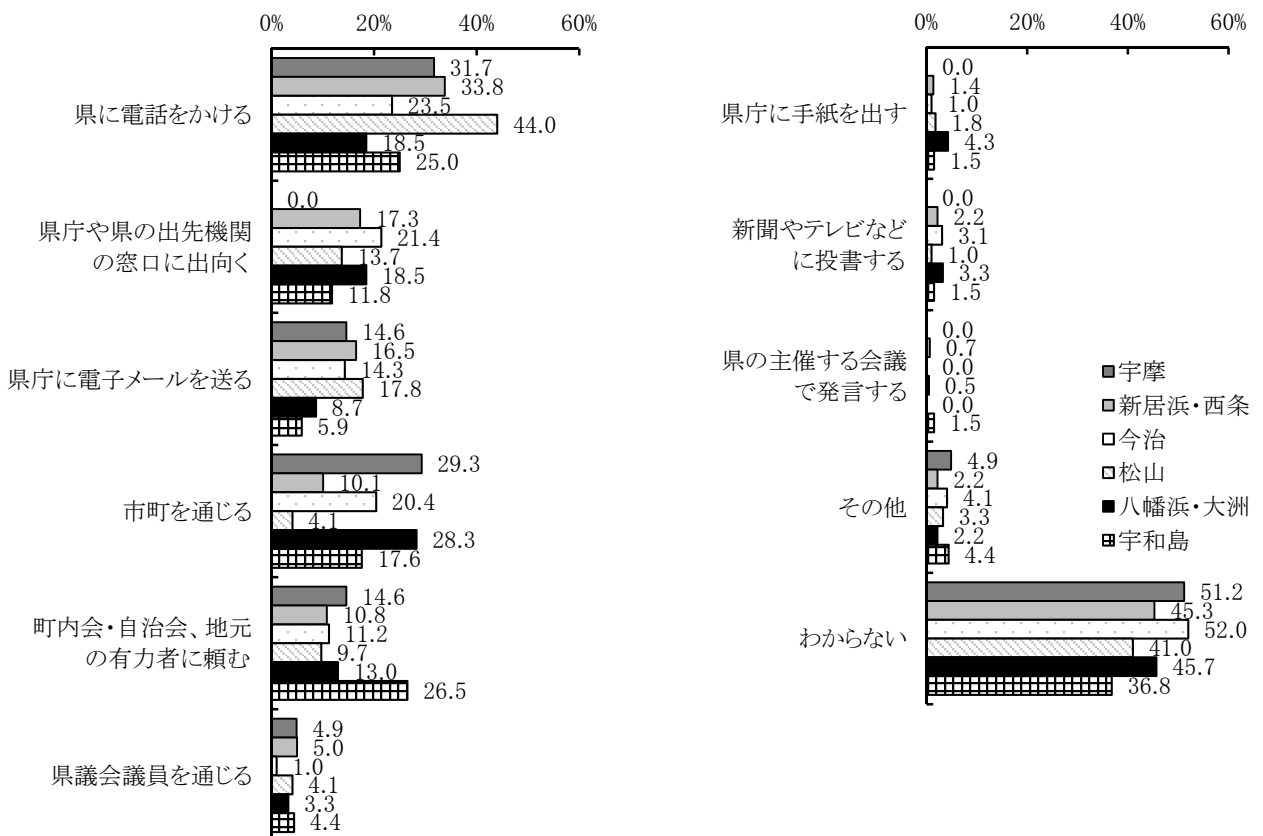


【生活圏域別】

生活圏域別にみると、八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域を除く全ての圏域で「県に電話をかける」と答えた人の割合が最も多くなっており、八幡浜・大洲圏域では、「市町を通じる」、宇和島圏域では「町内会・自治会、地元の有力者に頼む」が最も多くなっている。

また、「市町を通じる」は、宇摩圏域 (29.3%) で他の圏域と比較して、特に多くなっている。

なお、「わからない」と答えた人の割合は、宇摩圏域及び今治圏域で5割を超えている。



問 24 県政出前講座の周知度

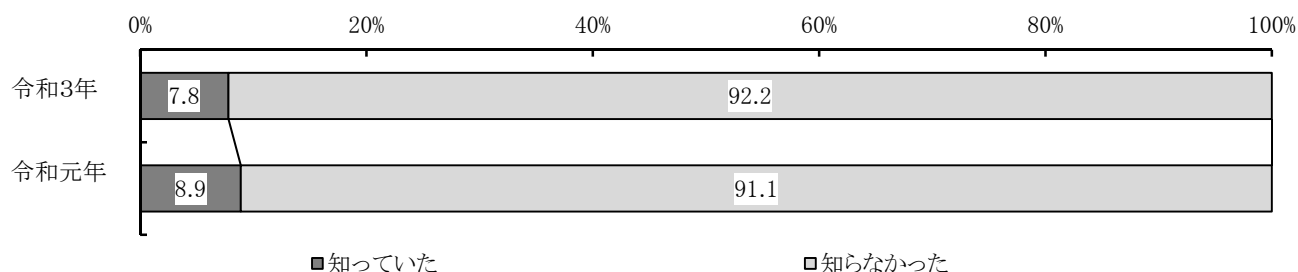
県では、県民の皆さんや団体からのご要望に応じ、地域や職場で行われる集会に職員を派遣し、県の施策や事業等をご説明する「県政出前講座」を実施しています。

あなたは、この「県政出前講座」をご存知でしたか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

		(%)
1	知っていた	7.8
2	知らなかった	92.2

県政出前講座について知っているか聞いたところ、「知っていた」と答えた人の割合は7.8%で、残りの92.2%は「知らなかった」と答えている。

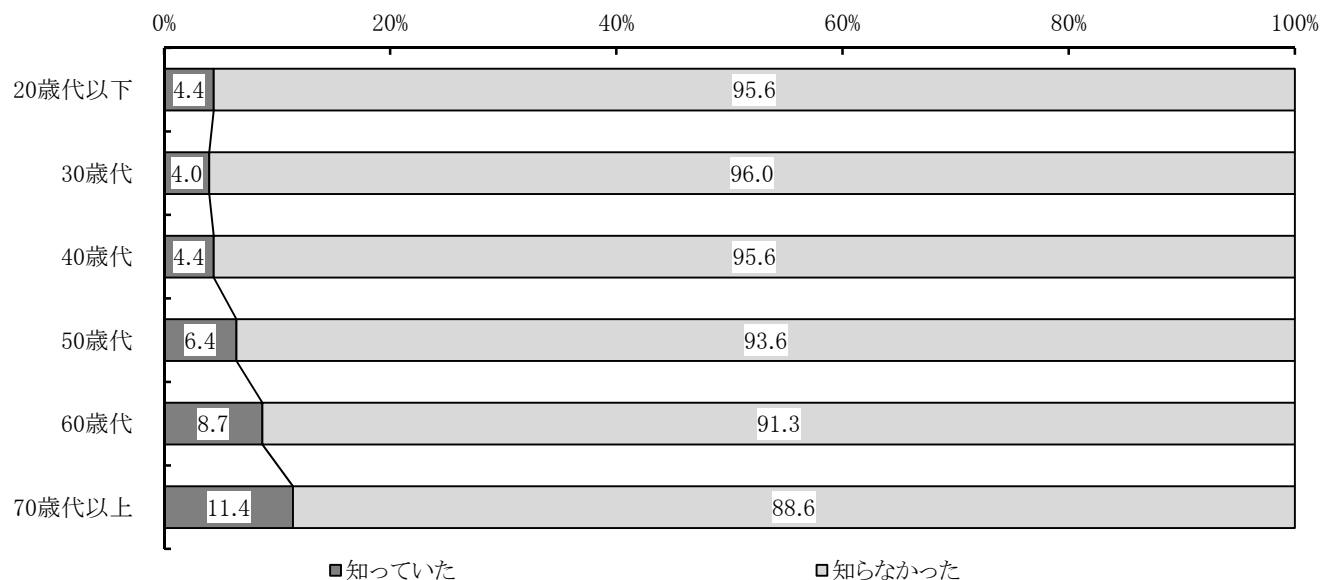
また、前回調査と比較すると、「知っていた」と答えた人の割合は、1.1ポイント減少している。



【年齢別】

年齢別にみると、70歳代以上を除く全ての年齢層で、「知っていた」と答えた人の割合は、1割未満となっている。

また、前回調査と比較すると、「知っていた」と答えた人の割合が、40歳代で4.6ポイント減少している。



問 25 県政出前講座を利用したいかどうか

あなたは、「県政出前講座」を利用したいと思いますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 利用したい	13.3
2 利用したいとは思わない	23.2
3 わからない	63.5

利用したいとは思わない主な理由を、次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

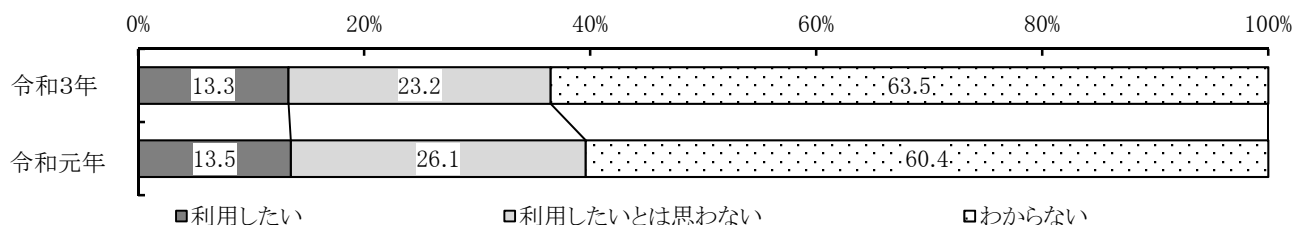
《利用したいとは思わない理由》

(回答者=271人) (%)

1 県政に興味がないから	17.0
2 利用したい講座テーマが設定されていないから	1.8
3 設定されている講座テーマを知らないから	15.9
4 講座は難しそうなイメージがあるから	15.9
5 利用する時間がないから	22.5
6 市町が実施している各種の講座を利用しているから	0.7
7 その他	8.1
8 特になし	18.1

県政出前講座を利用したいかどうか聞いたところ、「利用したい」と答えた人の割合は13.3%、「利用したいとは思わない」は23.2%、「わからない」は、63.5%となっている。

また、前回調査と比較すると、「利用したいとは思わない」は、2.9ポイント減少している。

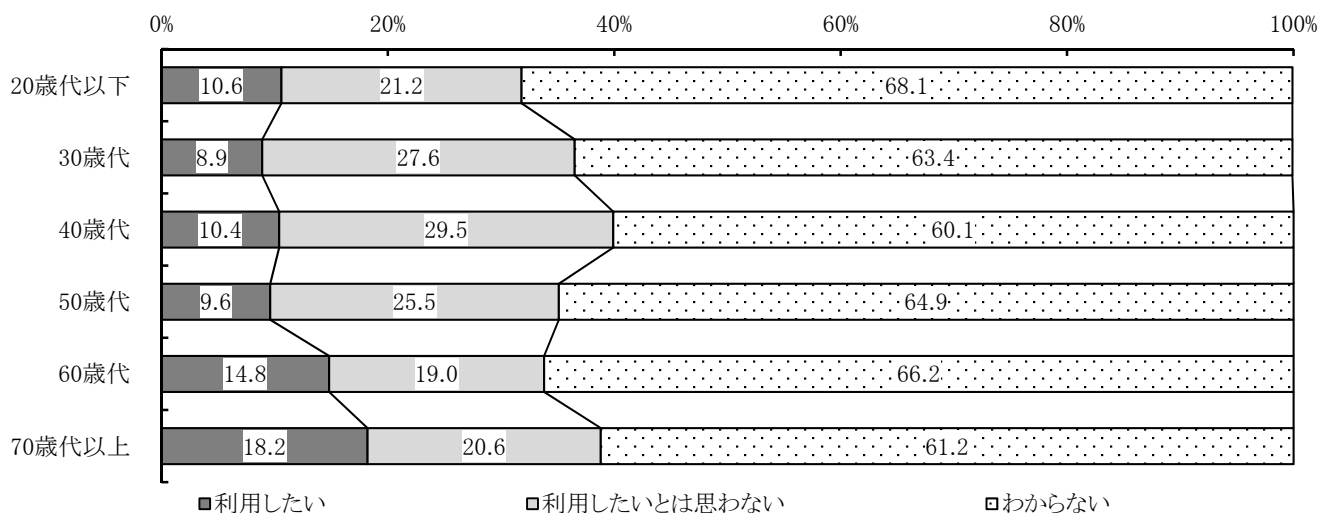


【年齢別】

年齢別にみると、「利用したい」と答えた人の割合は70歳代以上(18.2%)で最も多く、「利用したいとは思わない」は40歳代(29.5%)で最も多くなっている。

また、全ての年齢層で、「わからない」と答えた人の割合が、6割を超えている。

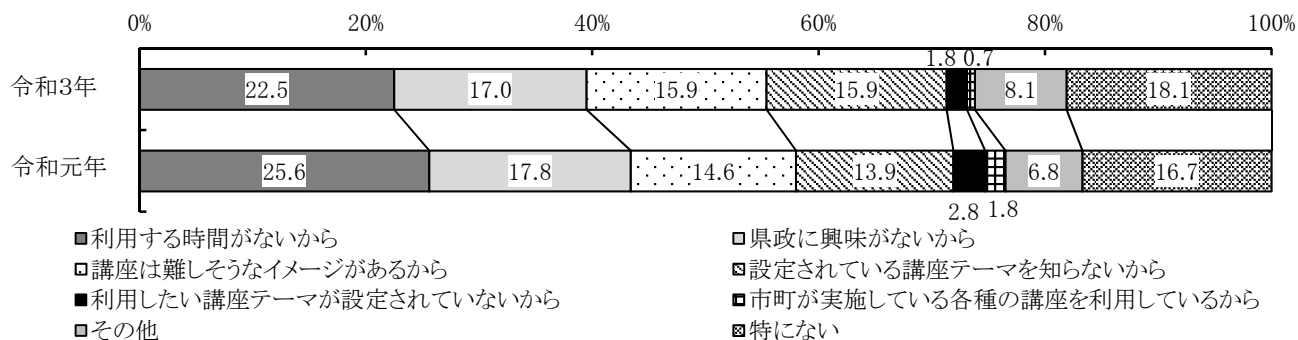
この他、前回調査と比較すると、「利用したい」と答えた人の割合は、50歳代及び60歳代を除く全ての年齢層で増加している。



《利用したいとは思わない理由》

利用したいと思わない理由を聞いたところ、「利用する時間がないから」と答えた人の割合が22.5%と最も多く、以下「県政に興味がないから」(17.0%)、「講座は難しそうなイメージがあるから」及び「設定されている講座テーマを知らないから」(15.9%)などの順となっている。

また、前回調査と比較すると、「利用する時間がないから」と答えた人の割合は、3.1ポイント減少している。一方、「設定されている講座テーマを知らないから」と答えた人の割合は、2.0ポイント増加している。



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代以下、40歳代及び70歳代以上では、「県政に興味がないから」と答えた人の割合が最も多く、30歳代、50歳代及び60歳代では、「利用する時間がないから」が最も多くなっている。

また、前回調査と比較すると、「利用する時間がないから」と答えた人の割合は、40歳代では23.0ポイント減少し、50歳代では24.6ポイント増加している。

